

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **84** 2023
春号

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.27

「Meet the President」を
開催しました

医学とは 人を研究する学問 人を知る学問
細井 裕司



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.27	3
令和4年度 卒業式	4
令和5年度 入学式	6
令和5年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算	8
退任の挨拶	10
MBT研究所だより (第28報)	11
国際交流センターだより vol.11	12
安全保障輸出管理への取り組み vol.6	14
先端医学研究支援機構だより	15
図書館だより	16
働き方改革だより	17
看護部の紹介	18
「奈良デジタル戦略」とは？	19

Topics

Campus News

医学看護学合同教育科目「奈良学」を開講しました	20
リサーチ・クラークシップ参加学生の論文が日本血液学会英文誌に掲載されました	22
新年度に向けたイベント出展検討が始まりました	22
医学科6年生今津君筆頭著者の論文がLangenbecks Arch Surg誌に掲載されました	22
叙勲伝達式を行いました	22
令和4年度FD・SD講演会を開催しました	23
漢方診療の体験型セミナーを開催しました	23
模擬国連世界大会 (NMUN: National Model United Nations) ニューヨーク大会参加決定	23
大和平野中央田園都市構想第2回フォーラムでパネル展示を行いました	24
TQM大会表彰式を行いました	24
「伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業」の啓発活動の一環として、市民公開講座を開催しました	25
奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」がイベント登壇	25
臨床研究 県民公開講座をハイブリッド形式で開催しました	25
神奈川県警から感謝状が贈呈されました	25
イノベーションストリームKANSAIに参加しました	26
大和平野中央田園都市構想関連事業 MBT モニター報告会を行いました	26
産学官連携活動の最新状況を共有しました	26
アカデミア×iPark 産学交流イベントに参加しました	26
ファーマラボEXPO 大阪に研究シーズを出展しました	27
第4回難病克服支援WEBセミナーを開催しました	27
協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました	27
令和4年度リサーチ・クラークシップ成果発表会を開催しました	28

Winner Report

総説論文がHighly Cited Papers of IJMS in 2021に選出されました	29
令和4年度コニカミノルタ画像科学奨励賞を受賞しました	29
第12回日本がんリハビリテーション研究会で優秀演題賞を受賞しました	29
令和4年度FD活動表彰式を行いました	29
令和4年度 学位授与の状況	30
未来への飛躍基金だより	30

Information

公開講座情報	31
令和5年度入試結果	31

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございます	31
メディア掲載情報	32
編集後記	32

生成 AI と奈良医大の将来

理事長・学長 細井 裕司

最近、生成 AI がよく話題になります。米 OpenAI 社が開発した人工知能を使用したサービス、Chat GPT は、2022 年 11 月に公開されるやいなや異例の速さで普及しています。積極的に活用すべきだという意見がある反面、誤情報の拡散やプライバシー侵害などの危惧から開発中止を求める意見もあります。

大学の対応はどうでしょうか。東京大学は AI だけを使った論文作成は認めないが、活用法の議論を始める方針を打ち出しました。上智大学は教員が許可した場合を除き、レポートや論文を書く際に使うことを禁止しました。海外においては、ニューヨーク市は学校での使用禁止しましたが、シンガポールでは受け入れることを指導するという考えを示しています。

私は、医科大学においても生成 AI の問題は、対処しなければならぬ大きな問題であると思っています。テクノロジーの進化は止められませんから、生成 AI の問題は避けて通れません。AI に頼るのではなく AI を使いこなし、そこから新たな創造が行える人材を育てたいと思っています。

入学試験を含めて、私は将来の試験は、2 種類になるのではないかと考えています。一つは、機器を使用しないで受験者の学力を評価するものです。辞書や本の持ち込み禁止の従来型の試験です。もう一つは、すべての機器を使用可として、人単独の能力と機器を使いこなす能力を合わせた総合力の評価です。この二つの評価指標のうち、後者の評価が実社会で役立つかどうかの評価となります。その意味から、徐々に後者の評価指標が重要視されるようになっていくのではないかと考えています。

高度で適切な医療を迅速に患者さんに提供し、患者さんの信頼を得ることは、医師過剰時代を迎えて、選別される医師、看護師になるための必須条件です。このとき、いかに多くの知識が頭に詰まっているかより、いかに AI を使いこなして高いレベルの医療ができるかの方が重要です。

また、いかに AI が発達しても、人と人の双方向のコミュニケーションは大切です。このような考えから、学生・保護者と学長の懇談会、留学生と学長の懇談会（本号の「国際交流センターだより」を参照ください。）を行いました。

奈良医大の医学・看護学教育はこのような観点から進めていきたいと思っています。ご理解とご協力の程、よろしく願い申し上げます。

令和4年度 卒業式

式辞

学長 細井 裕司

今日のおき日、奈良県立医科大学医学科を卒業する101名、看護学科を卒業する88名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは小学校入学以来の長い学生生活を修了され、ここに学士（医学）、学士（看護学）の学位を得られましたことは誠にめでたく、心からお祝い申し上げます。

これは、何よりも皆さんの弛まぬ努力の結果であります。それと同時に、今日まで皆さんを慈しみ育ててこられた保護者の皆様方や、皆さんの人間形成や教育に御指導を賜った教員、並びに関係する皆様のお陰であり、このことに感謝の気持ちを持っていただきたいと思います。

また、本日は、公務ご多忙の中ご臨席くださいました、奈良県知事 荒井正吾様をはじめ、御来賓ならびに関係各位に心から厚く御礼申し上げます。

奈良医大は一生の宝

満足のいく人生を送るために、最も助けになるのは友人です。大学時代の友人は、本当に親身になってくれますので、安心して相談ができる人々です。一生の宝です。

それにも増して大きな宝があります。それは母校奈良県立医科大学です。皆さんが卒業後、40歳、50歳、60歳になったとき、母校の力が必要な時があると思います。奈良県立医科大学の卒業生で良かったと感じる時が必ず来ます。

奈良医大の存在感 MBT医学を基礎とするまちづくり

私は母校奈良医大を日本において、そして世界において、存在感の大きい大学にしたいと考えてきました。それぞれの教室がそれぞれの医学の分野において、際立った業績を上げることは存在感に大きく寄与することは当然ですが、これらのことはすべての医科大学において行われています。皆さんが育った奈良医大は他

大学とは異なる特別な医科大学であることを再確認していただくため、その例としてMBTをあげたいと思います。

私は、奈良医大が独自の視点で、日本に貢献することを考えてきました。その考えを実現するために、住居医学を打ち立て、そして19年かかって奈良医大独自のMBT構想、MBT運動が大きく社会に貢献するようになってきました。MBTとはMedicine-Based Town、医学を基礎とするまちづくりのことで、私の造語です。その中心となっているのが、奈良医大MBT研究所とMBTコンソーシアムです。

単科の医科大学に全国から全業種から200以上の企業、団体が集まり、共同でプロジェクトを行っています。多くの企業に医学知識を供与することによって、イノベーションを起こし、産業創生を行っています。3割弱が東証（東京証券取引所）プライム上場企業です。これらの大企業と地場企業が協業することにより、地域活性化が行われます。医学による、奈良医大による産業創生、地方創生です。産業創生も地方創生も最終的には生活する人々のためですから、その人々の生活の場としてのtownを標榜し、Medicine-Based Townとしています。また、実際に全国で医学的視点からまちづくりを行っています。

また、より直接的な社会貢献として、コロナ克服キャンペーン、難病克服キャンペーンを行っています。これらの社会活動は日本経済団体連合会に認められ、奈良医大は経団連と連携して、MBT活動を全国展開しております。

皆さんの誇り

私がなぜMBTの話をしたのか、それは、「皆さんは、独自の視点と考えを持った、挑戦し続ける奈良医大で学んだ医師や看護師であること」に誇りを持っていただきたいからです。皆さんが学生時代に直接MBTに関与しなくても、この進取の気性に富んだ大学で育ったことは、皆さんの将来において「挑戦する人、挑戦し続ける人」になることの土台になると思います。

そして、独自の視点、独自の考え、挑戦する意欲を持つことによって、卒業後、奈良県で、日本で、世界で存在感のある人に成長していくでしょう。



医学科卒業生

私の危惧

特別な医科大学である母校奈良医大で学んだ自信をもって船出してくださいと申し上げました。しかし、自信過剰や謙虚さの欠如は、人生にとって弊害となります。

医師の需給推計によれば、皆さんが医師として活躍する期間は医師過剰の時期となります。早ければ2028年から、遅くとも2033年から医師過剰となり、その後ますます過剰の状態は増大していきます。看護師についても同様で、過剰になっていくものと推計されています。また、皆さんが活躍する時代はAIの時代でもあります。確実にAIが医療において存在感を発揮します。このことも、医師や看護師の過不足など皆さんの人生に大きく影響するでしょう。

このような状況をよく把握し、先を予測しながら人生設計をすることが必要です。先を予測するためには、情報の収集が重要です。私は、医師になろうとする皆さん方にとって、私の50年間の経験をお話することは人生設計の上に、いくらかは役立つのではないかと考え、「学生の皆さんと学長との懇談会」を昨日行いました。活発な質疑が行われ、懇談会は1時間半に及びました。危惧をいただいた理由は、この懇談会へ参加された方が極めて少なかったことです。人生は自分で切り開けるという自信から、人の話を聞かなくても良いと考える人が多かったなら、心配です。是非、自信とともに謙虚な気持ちを持っていただきたいと思います。それが、患者さんはじめ周囲の人に伝わると思っています。

おわりに

式辞を終わるにあたり、ある言葉を贈りたいと思います。それは、「挑戦するか、挑戦する人にあれこれ言うか。」です。

皆さんは素晴らしい素質に恵まれ、奈良医大で大きな能力を身につけて世の中に出発されます。もし皆さんが人生の途中で「あれこれ言う人」になっているのではないかと感じられたら「挑戦する人」になるように転換してください。人生がきっと豊かになります。

本日は本当におめでとうございませう。



看護学科卒業生

新たな旅立ち（医学部卒業式 大学院修了式 令和5年3月15日）

今年も242名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。（242名：医学部101名、看護学部88名、大学院医学研究科博士課程37名、同修士課程6名、看護学研究科修士課程10名）

また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。（敬称略）

◆奈良県立医科大学学長賞

医学部6年間または看護学部4年間の課程で最も優秀な成績を収めた者

医学部：佐々木 俊秀

看護学部：森 水輝

◆医学部同窓会厳樞賞、看護学部同窓会華樞賞

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者（ヒーローオブザクラス）
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳樞賞：上山 友暉、ながむね てると 長宗 輝都

華樞賞：よしだ りこ 吉田 理子

学長賞受賞者



医学部 佐々木 俊秀

奈良医大での学生生活の中では様々な幸運に巡り会えたと感じます。未熟な学生の実習に協力して頂いた患者様、学生の学びたいという気持ちに応じて下さった先生方・職員の皆様、共に高め合ってくれた友人など、これまで私をサポートして頂いたすべての方々と共に荣誉にあずかりたいと存じます。

私が6年間、努力を続けられたのは、それを支えてくださった方々、協力的な土壌が奈良医大には存在するからだと思っています。これからは自らもその恩恵に応えるべく、少しでも医療の現場で貢献できるよう精進して参ります。私の母校たる奈良医大が、挑戦する人にあれこれ言う大学ではなく、挑戦する人を支える大学であり続けることを心から願っております。



看護学部 森 水輝

この度は名誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。

大学生生活を振り返ってみると非常に充実した4年間だったように思います。実習で紆余曲折ながらもご指導のもと臨床の看護を学べたこと、部活動で汗を流した日々、同級生との何気ない日常までもが私にとってかけがえのない宝物となっております。学友との出会い、先生方や指導者の方々との出会い、部活動での出会いをはじめ、支えてくださった全ての方々に感謝申し上げますとともに、この素敵なお縁をこれからも大切にしていきたいと存じます。そして、誠実さを常に忘れず、患者様の心に寄り添いながら患者様と医療の架け橋となれるよう精進してまいります。

令和5年度 入学式

式辞

学長 細井 裕司

今日、春爛漫の良き日に医学部医学科113名、同2年次編入学生3名、医学部看護学科85名、合計201名の晴れやかな入学生の皆さんを奈良県立医科大学に迎えることができますのは、私どもの大きな喜びとするところであり、入学生の皆さんに対し心から「おめでとう」と申し上げるとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。

また、入学する学生を今まで慈しみ、支え、育ててこられた、ご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。

本日は、新型コロナウイルス感染症の対策として、会場への入場者数を制限しておりますが、ご列席いただけない皆様方のために、その模様をウェブ配信させていただいています。

ご多忙の中御臨席いただきました、

奈良県副知事

土屋 直毅様

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会会長

國分 清和様

奈良県立医科大学医学部看護学科同窓会会長

植村 信子様

に厚く御礼を申し上げます。

はじめに

皆さんは、私がそうであるように、奈良県立医科大学に入学し、奈良医大で学んだことが人生を通して本当によかったと思うと私は確信しています。この思いは時を経るにつれ大きくなっていきます。つまり、看護学科生は4年生になり、医学科生は6年生になり、卒業し、看護師になり、医師になり、経験を積んで、看護師、医師としての自信に満ちあふれるようになり、そして、還暦を迎え、人生を振り返る時「奈良医大で学んで本当に良かった」とここにいる皆さん全員が感じるはずですよ。

なぜそう思うのかの根拠をお話しします。

奈良医大の特徴

奈良医大はどのような大学か。それは、発展する医科大学、面倒見の良い医科大学、進取の気性に富む医科大学、奈良を基盤にして全国展開する医科大学、そして他学にはない力を持つ特別な医科大学です。

それぞれについてお話しします。

発展する医科大学

教育、研究、臨床という医科大学の基本的使命については、教育改革、研究論文の質と量、病院機能の充実等、着実に発展していますが、ここでは、目に見える進捗を報告します。それは、継続して行われている大学の整備計画のうち、2年後に第1期の完成を予定している新キャンパスです。

面倒見の良い医科大学

奈良医大は在学中だけでなく、医師や看護師として活動する一生をサポートいたします。

奈良医大に入学された方を、特に専門教育面で、一生面倒を見る医療人育成機構を創設しました。また、奈良医大独自の「未来への飛躍基金」を用いて海外留学を促進しています。これまでに、多くの先輩たちが海外での研修を行いました。

進取の気性に富む医科大学

単に医学の知識を教えるのではなく、医学以外の広い分野も知り、考える力を持つ医師・看護師を育てようと思っています。そのために、経済界など各界の著名人に奈良県立医科大学特命教授になっていただき、学生に接していただくことによって、視野を広く持つ人間として成長していただくように心がけています。今年度は、ダイソー創業者の矢野博丈様、DMG森精機社長の森雅彦様、パナソニック前会長の長榮周作様、クオールホールディングス会長の中村勝様の講義を予定しています。



細井学長による式辞

アントレプレナーシップの醸成

アントレプレナーシップの醸成に力を入れています。アントレプレナーシップとは「新しい事業分野を起こそうとする精神」です。新しい事業分野を切り開くために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さのことを意味しています。医科大学においてもこの精神は重要だと思います。

総合大学と異なり、医科大学発のベンチャー企業は多くありません。奈良医大ではこの2年間に5社が起業し、合計6社となりました。私は、奈良医大の教職員だけでなく、学生にもベンチャーを起業する意気込みをもっていただきたいと思っています。ビルゲイツ氏もマークザッカーバーグ氏も学生時代に起業しています。

奈良を基盤にして全国展開する医科大学

奈良医大には今皆さんがおられる橿原キャンパス以外に全国に6カ所のキャンパスがあります。北海道に1ヶ所、東京都に1カ所、大阪府に1カ所、奈良県に3カ所です。

特別な医科大学

私は、奈良医大が独自の視点で、日本に貢献することを考えてきました。その考えを実現するために、住居医学を打ち立て、そして19年かかって奈良医大独自のMBT構想が大きく社会に貢献するようになってきました。

MBTとはMedicine-Based Town、医学を基礎とするまちづくりのことで、私の造語です。その中心となっているのが、奈良医大MBT研究所と一般社団法人MBTコンソーシアムです。

単科の医科大学に全国から全業種から200以上の企業、団体が集まり、共同でプロジェクトを行っています。このような例は世界的にも極めて珍しく、他学にはない奈良医大独自の活動と言えます。企業に医学知識を供与することによって、イノベーションを起こし、産業創生を行っています。3割弱が東証（東京証券

取引所）プライム上場企業です。これらの大企業と地場企業が協業することにより、地域活性化が行われます。医学による、奈良医大による産業創生、地方創生です。産業創生も地方創生も最終的には生活する人々のためですから、その人々の生活の場としてのtownを標榜し、Medicine-Based Townとしています。また、実際に全国で医学的視点からまちづくりを行っています。

より直接的な社会貢献として、コロナ克服キャンペーン、難病克服キャンペーンを行っています。難病克服キャンペーンは多くの方に難病について知って頂き、考えて頂くことが目的です。本年1月14日にはその一環として、東京・有楽町で映画祭を行いました。NHKの全国ニュースで放送されましたので、ご覧になられた方もおられると思います。

これらの社会活動は日本経済団体連合会に認められ、奈良医大は経団連と連携して、MBT活動を全国展開しております。

また、4月14日金曜日の午後7時30分から、かんさい熱視線というNHK総合テレビの番組で、奈良医大が取り上げられます。奈良医大へ入学された皆さんが、奈良医大の一端を知る良い機会だと考えましたので紹介させていただきます。

贈ることば

この式辞を終わるにあたり、ある言葉を贈りたいと思います。それは、「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」です。

皆さんは持って生まれた素晴らしい素質に恵まれ、奈良医大に入学されました。奈良医大で大きな能力を身につけていただきたいと思います。大きな能力を身につけられるかどうかは皆さんの心がけ次第です。挑戦する人になろうとするのか、挑戦する人にあれこれ言う人になるのかでは卒業時点で大きな相違が出てきます。

もし皆さんが「あれこれ言う人」になっているのではないかと感じられたら「挑戦する人」になるように転換してください。人生がきっと豊かになります。

再度述べます。「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」本日は本当におめでとうございます。



入学生代表による宣誓

令和5年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

令和5年度は、第3期中期計画の5年目となり、最終年度に向けて、課題となっている項目については、引き続きその解消に向けて取り組むことが必要な年となります。一方で、新型コロナウイルス感染症対策の5類移行に伴う影響は不透明であり、今後病床運用の平常化を進めていく必要があります。

そのような状況を踏まえ、病院収入の回復を目指すとともに、必要な予算については県等からの支援を活用し、5年度も引き続き収支均衡に向けた予算編成を行いました。

予算規模については、人件費や診療経費等の増加が見込まれ、令和4年度の637.1億円と比較して72.8億円増の709.9億円となりました。

令和5年度的主要な取組としては、医学教育分野別評価の受審や、病院経営の改善化に向けたコンサルティング、建物の耐震対策などの施設整備や第3期中期計画にある「良き医療人の育成」、「県内基幹病院として機能の充実」など、法人の将来を見据えた取り組みを引き続き行います。

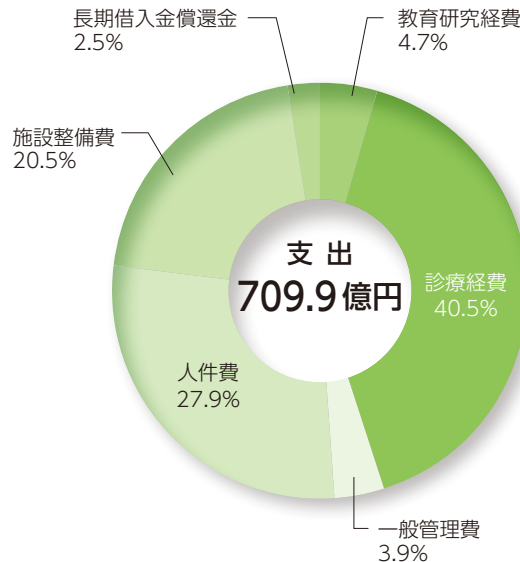
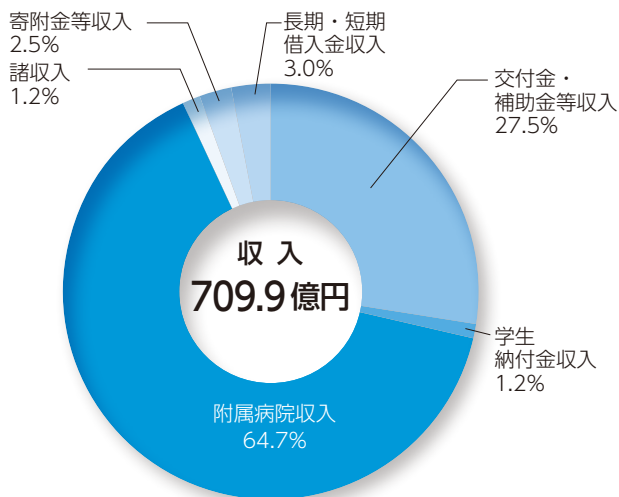
また、新キャンパスの新築工事や造成工事など、新キャンパス移転に向けた取り組みも継続して実施します。

法人の更なる発展のため、中期計画の円滑な遂行、効率的な法人経営の推進について、教職員の皆様には、それぞれの分野でのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

令和5年度予算の内容

収入	項目	予算額	構成比
収入	法人が自ら得た収入(自己収入)	475.9億円	67.0%
	附属病院の診療報酬等(附属病院収入)	459.1億円	64.7%
	学生が納付した収入(授業料・入学金・入学検定料)	8.4億円	1.2%
	その他の収入(諸収入)	8.4億円	1.2%
	他機関等からの支援(交付金・補助金)	195.2億円	27.5%
	県からの支援(運営費交付金等)	52.7億円	7.4%
	国等からの支援(補助金収入)	142.5億円	20.1%
	職員が集めた収入(受託研究・寄附金等収入)	17.8億円	2.5%
	借入金(長期借入金等収入)	21.0億円	3.0%
	収入計	709.9億円	100.0%

支出	項目	予算額	構成比
支出	義務的に支払う必要のある経費(人件費、償還金)	216.1億円	30.4%
	職員への給与の支払い(職員給与)	192.7億円	27.1%
	退職手当の支払い(退職手当)	5.7億円	0.8%
	借金の返済(長期借入金償還金)	17.7億円	2.5%
	業務の運営に必要な経費(業務費等)	348.3億円	49.1%
	大学での教育研究に必要な経費(教育研究経費)	33.1億円	4.7%
	附属病院での診療に必要な経費(診療経費)	287.5億円	40.5%
	法人の運営全般に必要な経費(一般管理費)	27.7億円	3.9%
	施設整備や医療機器購入経費(施設整備費)	145.5億円	20.5%
	支出計	709.9億円	100.0%



令和5年度予算の主要事業・新規事業

地域貢献

適切な医師派遣システムの確立、学生の県内就職率の向上

- 県立医大医師派遣センターの運営
● 県費奨学生配置センターの運営
39,725千円 (R4 35,500千円)
医師配置の一元的な運営体制のさらなる整備、県費奨学生の地域配置などの支援
- 県民健康増進支援センター運営費
18,590千円 (R4 18,300千円)
市町村や県の健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供
- ドクターヘリ運航推進事業 275,820千円 (R4 273,000千円)
ドクターヘリ運航にかかる委託経費等
- 奈良医大在宅医療支援センター運営事業
20,000千円 (R4 20,000千円)
地域包括ケアシステムの構築に向けたセンターの運営に要する経費

教育・研究部門

学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保、研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実

- 良き医療人育成推進事業 45,864千円 (R4 37,678千円)
豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、最善の医療提供を実施し続けようとする強い意志を持った医療人の育成
- 医師・患者関係学講座事業 33,000千円 (R4 33,000千円)
医師としての人間性を育むための支援を行う講座の設置・運営にかかる経費
- 新 医学教育分野別評価受審事業 8,500千円
日本医学教育評価機構 (JACME) が実施する医学教育の評価・認定にかかる受審経費
- 重点研究推進事業 22,260千円 (R4 21,510千円)
血栓止血の制御に関する研究、画像下での低侵襲医療 (IVR) に関する研究に要する経費
- 研究環境充実事業 22,121千円 (R4 22,615千円)
横断的共同研究への助成、若手研究者への助成、科研費申請への助成、公的研究費の不正防止など研究環境の充実に要する経費

診療部門

患者サービスの向上、病院機能の充実

- 新 病院経営分析・経費節減事業 8,404千円
高騰する医療機器等保守費用の節減や、病院経営指標等のベンチマーク比較について、コンサルティングを活用して実施
- 耐震対策事業 (病院) 21,968千円 (R4 219,834千円)
耐震性能が低い施設 (教育研修棟、スキルスラボ棟、厳櫃会館) の応急対応を行うための経費
- 病院施設の各所改修 366,300千円 (R4 235,530千円)
病院機能の維持・向上を図るための施設 (A棟屋上防水、C棟中央監視設備更新、医局棟空調機器更新、病院内各所自動ドア修理等) の各所改修を実施

まちづくり

新キャンパス

- 新キャンパスの整備
12,500,000千円 (R4 6,966,889千円)
新キャンパスの新築工事、造成工事、継続整備検討などにかかる経費

法人運営部門

法人組織の円滑な運営・福利厚生 の 充実、事務の合理化の推進

- なかよし保育園の運営 143,096千円 (R4 130,662千円)
職員の保育ニーズに対応するため、運営委託、病児保育委託を実施
- 耐震対策事業 (大学) 712,715千円 (R4 700,496千円)
耐震性能が低い施設 (基礎医学棟、看護学科棟、第二臨床講義棟) の応急対応を行うための経費
- 新 広報戦略検討事業 1,000千円
本学の認知度・ブランドイメージのさらなる向上を図るため、メディア露出記事等を収集し効果的な広報戦略を検討

退任の挨拶



第一解剖学 教授 西 真弓

本年3月末日をもって解剖学第一講座教授を退任することになりました。2009年に京都府立医大から着任して14年弱、第一解剖学講座において研究・教育に携わらせていただきました。時代の先端をいく最新の手法と新たなコンセプトで研究にチャレンジし、世界の第一線の目線で研究すること、講義・実習は常に最高の内容を提供すべく、勉強を怠らず、情熱と誠意をもって学生に接することを心がけて参りました。どれほどできたかわかりませんが、心に響くものを多少でも残せていたら幸いです。大学の教員、事務の皆様、教室員、同門の皆様など多くの方に支えていただきました。心より感謝し、厚くお礼を申し上げますとともに、本学のさらなるご発展をお祈りいたします。



生化学 教授 高沢 伸

2007年から16年間、生化学講座で働かせて頂きました。在任中は研究・教育等で各方面から皆様の多大なご支援、御協力を賜り、心より感謝申し上げます。その間、医学部学生・大学院生諸君と講座のスタッフに支えられ、「明暗の間」にある事象を少しばかり「明」の領域に引っ張り出せたことは研究職・教育職として何よりのことだと感謝しています。今後の奈良県立医科大学とその構成員各位の益々の御発展を祈っています。大変有り難うございました。



病原体・感染防御医学 教授 吉川 正英

私は、昭和57年に本学を卒業し、県立奈良病院2年間、カナダ留学2年間を除き、今退職を迎えるまで本学に勤務させていただきました。充実した47年間を有難うございました。その間、第3内科・病態検査・寄生虫学教室を経て、平成23年に誕生した本教室を主宰させていただくことになり、前身の寄生虫学教室より引き継いだ臨床寄生虫学実践に、新たに幹細胞研究を加え、現在はさらに国立感染研や長崎大学熱研との繋がりを得て、ウイルス学や国際保健分野への関心も深まってきたと思っています。

本学は母校です。履歴書を書くたびに奈良県立医科大学卒業と記してきた母校です。心から発展を祈り続けます。



脳神経外科学 教授 中瀬 裕之

私は、1993年(昭和58年)に本学を卒業し外科学第二講座(現在の脳神経外科学講座)に入局しました。2009年からは教授として教室の運営にあたらせていただきました。脳神経外科学教室では、「高度先進医療の開発と提供をとおして、倫理感豊かな医療人を育成し、地域社会の福祉に貢献する」という理念を掲げ、教室員一丸となって教育・研究・臨床に取り組んできました。2023年3月末で定年退職させていただきますが、脳神経外科医として苦しくも充実した楽しい40年間を過ごさせていただいたと思っています。本学の益々の発展を心からお祈りしております。有難うございました。



総合医療学講座 教授 西尾 健治

2011年の春に救急科より総合診療科に移ってから12年の月日が経ちました。当時、医局員は私一人で、当然病棟もなく、新生総合診療科として再出発しましたので、10年後も一人だったらどうしようと不安な気持ちがいっぱいでした。それでも、医学の発展に寄与する専門性の先鋭化の中、広がりを見せる専門性の狭間に対応し、病変のみならずその器である人の気持ちや社会性へ病変が与える影響にも目を向け、多疾患を抱える高齢者医療にも対応できる総合診療医を育てたいという気持ちで進んでまいりました。この4月で入局者すなわち共感者、私の家族は、39名を数えるようになりました。奈良医大に灯った総合診療の小さな火が、奈良医大のめざす最高の医学と最善の医療の実践に貢献できますことを祈り、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。



臨床病態医学 教授 濱田 薫

3月末で定年退職となりました。平成2年4月に助手としていただいてから2年間の米国留学を含んで18年間内科学第二講座(呼吸器内科学)にお世話になり、平成20年4月に看護学科へ異動してから14年間看護学科教員として本当に多くの方にお世話いただきました。特に教育支援課(学務課)や研究推進課の皆様には細々としたことまで手取り足取りという感じの指導を受けながら教員としての責務をこなしてきたような気がします。看護教育における医師としての立場を生かした貢献ができたかといわれれば否定的な記憶しかなく、後悔することも多いですが、なにより教員や学生の皆様の温かいサポートを賜り大変幸福な日々を過ごせたことに心から感謝いたしております。奈良県立医科大学のますますのご発展をお祈り申し上げます。

1. 首都圏での存在感の向上

我が国においては、政治・経済・学問・情報発信等全ての面で首都圏一極集中となっており、本学の存在感を高めるためには、首都圏にどのようにアプローチするかが大きな課題です。いくつかの試みにより首都圏での存在感向上が図られております。

(1) MBT 映画祭

第2回 MBT 映画祭は、有楽町朝日ホールで200人を超える観覧者が見守る中で、38本の応募作品から選ばれた7本の入賞作品が上映されました。その後に、映画監督の篠原哲雄氏を審査委員長とする7人の審査委員の審議により、表の4本が受賞作品に選ばれました。

第2回 MBT 映画祭表彰作品

賞名	作品タイトル	作品監督名
最優秀賞	レミングたち	角 洋介
優秀賞	ぼくときみの小さな勇氣	相馬 雄太
特別賞	私じゃない私に きょうだい児のものがたり	沓 嚙矢 (こだま こうし)
特別賞	夏の夜の花	高橋 伸彰
クラウドファンディング 観客賞	私じゃない私に きょうだい児のものがたり	沓 嚙矢 (こだま こうし)



野田聖子衆議院議員

また、衆議院議員野田聖子氏の特別講演が行われ、国会議員活動の裏側で、障害を持ち医療的ケア児でもあるお子様の育児奮闘記を中心としたお話を頂き、会場の感動を呼びました。NHKが1月14日夕方6時の全国ニュースで紹介し、また読売新聞も1月15日の朝刊で記事を掲載するなど反響を呼びました。

(2) 城南信用金庫・よい仕事おこしフェア実行委員会

2月27日、本学、MBT コンソーシアム及びよい仕事おこしフェア実行委員会（事務局：城南信用金庫（理事長：川本恭治））は、相互に協力し医学知識を基に地域の活性化と産業の振興を図るため、包括的な連携・協力体制の構築を図ることに合意し、東京で協定締結の調印を行いました。よい仕事おこしフェア実行委員会は、全国36の信用金庫で構成され、地域の枠を超えたビジネスマッチングや事業支援を図る「よい仕事おこしネットワーク」、地域創生イベント「よい仕事おこしフェア」などの開催で社会貢献に取り組んでいる組織です。城南信用金庫は我が国最大の信用金庫であり、首都圏での存在感はメガバンクに匹敵します。このため、調印式には多くのマスコミの取材があり、NHKが翌朝の番組で2回取り上げるなど注目を集めました。



右から川本恭治理事長、細井理事長、高田知彦理事長（奈良中央信用金庫）

(3) 経団連地域協創アクションプログラム

MBT コンソーシアム・奈良医大は日本経済団体連合会（経団連）の「地域協創アクションプログラム」のパートナーとして連携しております。他のパートナーは、内閣府、農林水産省、国土交通省、観光庁等の官庁、全国知事会、指定都市市長会等の地方自治体、Jリーグ等の全国的な団体が選ばれております。経団連の首都圏での存在感は大きく、MBT活動の首都圏での存在感向上に貢献しております。

2. 奈良県のまちづくり構想

奈良県は「大和平野中央田園都市構想」と「医大・周辺まちづくり」の2つのまちづくりの検討を進めてきました。この双方に本学・MBT コンソーシアムは貢献しています。

(1) 大和平野中央田園都市構想

大和平野中央田園都市構想は当初「大和平野中央スーパーシティ構想」として検討が始まり、その後政府の動向を踏まえ、「大和平野中央田園都市構想」に名称を改めて検討が進められてきました。この検討において、細井理事長がアカデミア代表の一人として検討会に参加するとともに、MBT 研究所梅田智広研究教授が提案した「センシング技術を活用した、健康増進・高齢者見守りを叶えるウェルネスタウンの形成」が事業採択され、実証実験を行いました。

(2) 医大・周辺まちづくり

「医大・周辺まちづくり検討会」が3回開催され、細川洋治 MBT 研究所副所長が検討メンバーとして参加するとともに、MBT コンソーシアムの会員企業6社が民間事業者として意見を述べました。



細井理事長



細川洋治 MBT 研究所副所長

国際交流センターだより vol.11

「Meet the President」を開催しました（3月22日）

理事長・学長 細井 裕司

私は毎朝、7時半頃に朝食をドトールコーヒーショップでとっています。1月の中旬、外国人の方をみかけましたので、声をかけました。アナさんというドイツの医科大学の6年生でした。これがきっかけで、奈良医大に留学中の学生や医師と学長の懇談会を持つと考えました。嶋医学部長、伊藤教授にも参加していただき、6名の留学中の方とざっくばらんな会話の会を行いました。ドイツから3名、マレーシア、タイ、ネパールから各1名でした。それぞれの国の医学部の制度、奈良医大での勉強内容、日本での生活、困っていること、要望など話が尽きず、予定時間を30分オーバーして、なお話が続いていました。次回はより多くの奈良医大の先生方にも参加して欲しいと思いました。



Markus Maximilian Koch(ハノーファー医科大学)

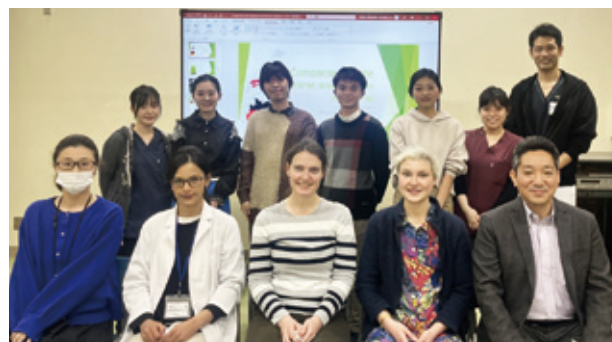
(消化器・総合外科 2023.3.13～5.7)

I had the opportunity to meet president Hosoi during the "Meet the president" event and talked with him, professor Ito and professor Shima. Talking with them and the other international doctors and students about our time at Nara Medical University and differences and similarities in our medical education was very informative and interesting. Especially at the start of a stay in Japan, when one may still feel a little bit nervous in the new environment, events like this also provide a great opportunity for networking between international students, who in turn can support each other at the start of the internship, when a lot of things are still new and unknown. Therefore, I hope, that events like this will also happen in the future to further promote international exchange.



「第2回 外国人留学生との交流会」を開催しました（3月1日）

3月1日、本学附属病院で実習中の外国人医師・学生と、本学学生・先生方との交流会を開催しました。ドイツ人の学生によるプレゼンの後は、参加者同士が意見を交換し、有意義な時間となりました。今後多くさんの学生、先生方に参加していただきたいと思います。



産婦人科で実習（2023.1.18-3.10）のソーザン（Susan Trümpelmann・ヴェストファーレン・ヘルム大学）によるプレゼンテーション「Comparison of the Japanese and German clerkship」

学生、研修医、大学院生、若手医師のみならず

Let's talk in English

奈良医大附属病院で実習中の外国人医師・学生を囲んだ交流会です。お茶を飲みながら自由に話しましょう。お気軽にご参加ください。

【日時】 2023年 3月 1日（水）
17:00～18:00

【場所】 基礎医学棟5階 小講義室

【定員】 10名（先着順）

参加希望者は、国際交流センターまでメールで連絡してください。
kouda@naramed-u.ac.jp

◆問い合わせ先：国際交流センター 幸田友紀
（基礎医学棟4階 研究推進課内 内線2479）

主催：英語で学ぶ医学・看護学アドホック委員会

「第6回 英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナー」（医学科3年生対象）を開催しました

輸血部・血液内科学 松本 雅則

3月24日に血液内科特別講義としてベルン大学名誉教授のBernhard Lämmle先生に講演を行っていただきました。「Exaggerated or insufficient activity of the hemostatic system: Some clinical examples」というタイトルで、症例を中心にお話していただきました。学生には難しい内容と思いましたが熱心に質問してくれ、レムレ先生が詳しく答えてくれたのが印象的でした。レムレ先生は私より15歳ほど年上の著明な医師・研究者ですが、学会でお話したのがきっかけで、共同研究などで親しくしていただいています。今回の特別講義の意図は、英語が苦手でも、海外の研究者・医師の話をよく聞いて、質問することで交流することの大切さを知ってもらいたかったのですが、目的は達せられたと喜んでます。



Bernhard Lämmle
Professor emeritus, University of Bern, Switzerland

ベルン大学 名誉教授 Bernhard Lämmle (ベルンハルト・レムレ)

I was very pleased that you invited me to give a lecture for your 3rd year medical students via Zoom. Your initiative of exposing the young colleagues to more senior teachers from several different countries is excellent and I highly appreciate your interest and engagement in furthering your students.

At the end of my lecture on clinical aspects of hemostasis and thrombosis I was happy to see several students asking interesting questions which was a very positive experience for me as a retired hematologist still active in consulting and research.

My thanks and appreciation go to Masanori Matsumoto, for our longstanding collaboration and friendship. I also gratefully thank Nara Medical University International Center for their technical help with the presentation.

Finally, all best wishes to the students who listened to my presentation. Enjoy your profession and the daily learning for the benefit of patients and medical science.



学生の声

医学科3年 井口 一步

【講義の感想】 英語の特別講義が始まる前。講義内容がわかるかな、という不安と、先生が何を喋っているか理解したい、というドキドキを感じていました。そんな心配をよそに、講義はあっという間に過ぎ、満足して終えることができました。

【英語について一言】 文化の違う人との交流や留学など、英語を使えると楽しいことが増えると思っています。英語を使える楽しさを共有できる人が増えれば嬉しく思います。



令和4年度若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定（1月23日）

令和4年度 若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の4名の方々に決定しました。コロナ禍で募集を停止しておりましたが、この度再開いたしました。今後、例年通り募集をいたします。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所 属 (科 目)	職 名	氏 名
輸血部	医員	山田 真也
整形外科科学講座	医員	齊藤 謙一郎
麻酔科学講座	助教	小川 裕貴
総合画像診断センター	助教	太地 良佑

安全保障輸出管理への取り組み vol.6

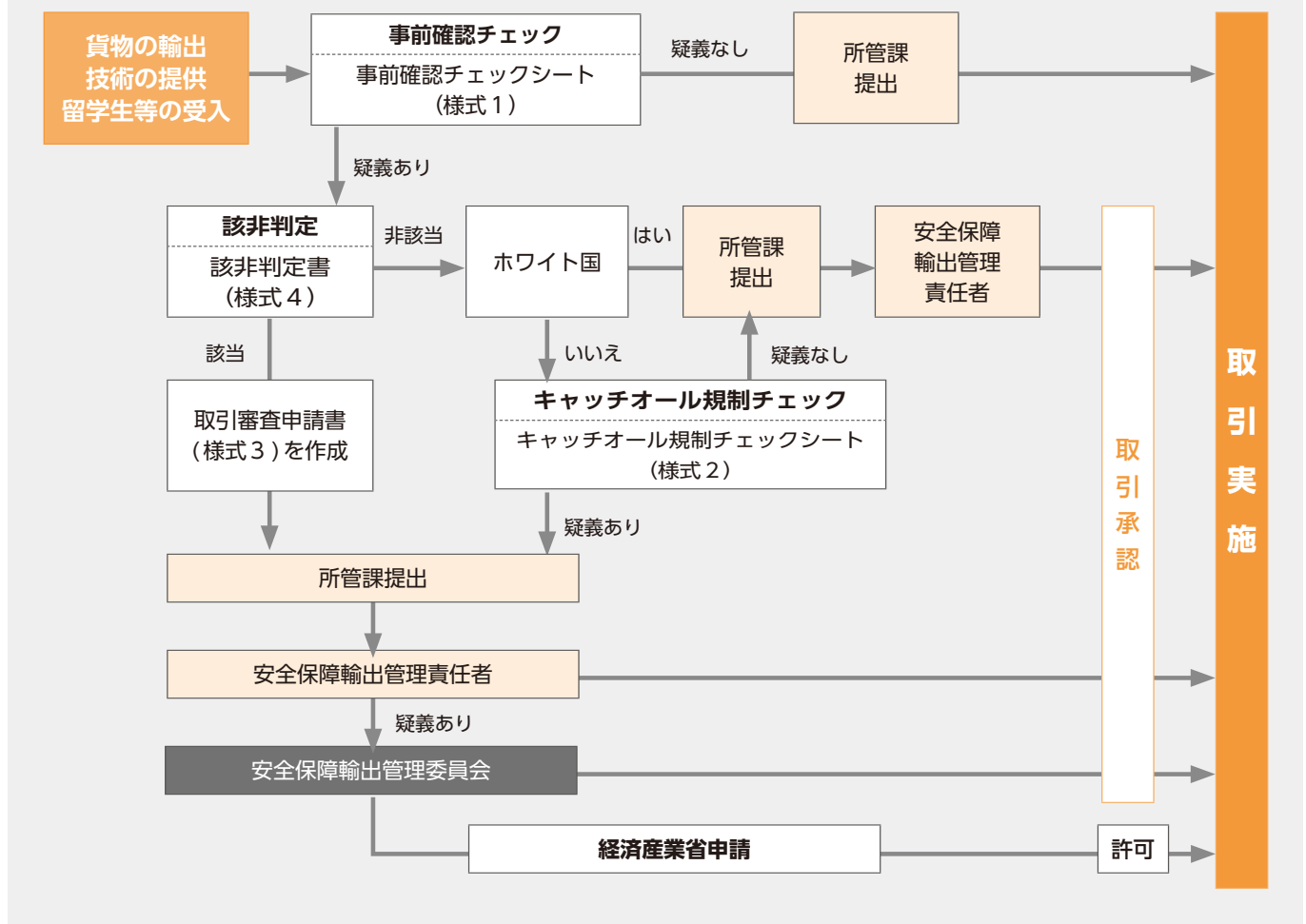
安全保障輸出管理とは、軍事転用可能な貨物または技術が大量破壊兵器の開発を行っている国やテロリスト等の手に渡ることを防ぐための管理制度です。

海外機関との共同研究で、実験用部品、研究試料を輸出する、国際学会での研究発表、海外の出版社への論文投稿、外国人研究者を受け入れるときもその規制の対象となりうる可能性があり、本学でも安全保障輸出管理に取り組んでいます。

令和4年5月1日付の制度改正により、さらなる対応が求められるようになり、学内の確認体制も強化されました。令和5年度は新たな変更点はありませんが、今年度から新たに本学で研究される方に周知いたしますと共に、従前より本学で研究されている方にも、改めてご確認をお願いします。

学内手続きの流れ

学内における安全保障輸出管理の手続きとして、取引を行う**教職員等各自**が事前確認チェックを行い、各様式を所管課に提出します。



- 所管課**
- 研究推進課 …論文投稿、外国出張(学会発表等)、研究試料・機器の輸出、研究技術の提供
 - 人事課 …外国人教員(常勤)の受入れ
 - 教育支援課 …留学生の受入れ、外国人教員(非常勤)の受入れ
 - 病院管理課 …病院実習生の受入れ、病院施設見学、外国出張(診療業務)、医療機器の輸出、
病院所管で他の所管課に属さない案件
 - 総務広報課 …大学所管で他の所管課に属さない案件
- 等

奈良県立医科大学安全保障輸出管理規程、輸出管理の学内手続き様式類等は学内ホームページの【国際交流センター】>【安全保障輸出管理】のページからダウンロードできます。

お問い合わせ先 輸出管理事務局(国際交流センター)基礎医学棟4階 TEL(内線:2479) MAIL anpokanri@naramed-u.ac.jp

先端医学研究支援機構だより

重点研究進捗状況報告会を開催しました

本学では、重点研究 2016 推進計画に定める重点研究課題として、「地域に根差し地域と歩む研究」「日本を世界を牽引する研究」「良き医療人を育てる研究」を推進しています。

このたび、12月26日、1月31日、2月28日、3月28日に下記の研究の進捗状況報告会を開催しました。

●地域に根差し地域と歩む研究

「術後機能障害に関するコホート研究」

麻酔科学

教授 川口 昌彦

「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究」

疫学・予防医学

教授 佐伯 圭吾

「奈良県における循環器医療の質の向上と循環器病地包括ケア構築に資する実態調査」

循環器内科学

医員 野木 真紀

「MBT (Medecine-Based Town) の取り組みと今後の展望」

MBT 研究所

コーディネーター

塩山 忠夫



麻酔科学 川口昌彦教授



疫学・予防医学 佐伯圭吾教授



循環器内科学 野木真紀医員



MBT 研究所 塩山忠夫コーディネーター

●日本を世界を牽引する研究

「トランスレーショナル・リサーチの紹介」

放射線診断・IVR学 教授 田中 利洋

「血栓止血の制御に関する研究」

血栓止血先端医学 准教授 辰巳 公平



放射線診断・IVR学 田中利洋教授



血栓止血先端医学 辰巳公平准教授

●良き医療人を育てる研究

「良き医療人を育てる研究」

教育開発センター 教育教授 若月 幸平



教育開発センター 若月幸平教育教授

フェニックスよ、永遠に

みなさんは大学本部棟前のロータリー中央に高くそびえ立っていたフェニックス（カナリーヤシ）をご存じだったでしょうか？去る2月11日（土）にロータリー整備工事に伴い伐採されて、60年余りの生涯を閉じました。実はこのフェニックス、図書館にゆかりの深いものだったのです。

経緯は「奈良県立医科大学二十年史」の526ページに記載されています。昭和37年10月に当館は加盟する日本医学図書館協会の第33回総会の開催館を務めました。4日間の日程で、初代鎌倉館長の下で盛会裏に終えることができました。その後、第2代小谷館長のご就任後間もなく、当時の事務主任をされていた上野先（すすむ）氏は、総会事務局の責任者として多忙を極められたこともあり、翌昭和38年4月に病のため逝去されました。そこで当館のために尽力された業績に報いるために本学図書館葬が行われ、同年6月にご遺族のお申し出により、本館正面にフェニックスが植樹されました。当時の図書館（現在の病歴資料室）の真正面にあたる位置になります。当初はまだ細かったため、冬を越すために当館スタッフが”こも”を巻いて保護していたとお聞きしたことがあります。その甲斐もあり、フェニックスは故人の遺志を強く引き継いですくすくと成長し私たちを見守ってくれていました。

今回の工事にあたり、大学にも、このフェニックスの子孫を残すことを検討していただきましたが、ヤシ科の植物は挿し木ができず、種子から育てる必要があるところ、残念ながら雄株であり種子はできないことも分かり、諦めざるを得ませんでした。

そんな中、伐採前日の朝、福益法人企画部長（当時）から連絡をいただき、フェニックスを背景に記念写真を撮っていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

現在、建設中の新キャンパスには、新図書館の近くに、ぜひとも、新しいフェニックスの植樹を実現したいと思います。

これまでのフェニックスはなくなりましたが、その受け継がれた図書館の精神（ライブラリアンシップ）は今も当館スタッフの心に深く根付いています。本学の教育・研究・診療を支えるためにこれからも日々精進してみなさまのお役に立てるよう努めてまいります。引き続き、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



さて、令和4年度の当館の5大トピックと言えば以下があげられるかと思います。詳しくは図書館ホームページに掲載のニュースレター（以下カッコ内は該当号）をご覧ください。

1. 医中誌Web版が大きくりニューアル (141号)
2. ウェビナーアーカイブを開設 (149号)
3. 奈良県立図書情報館との連携サービス開始 (142号)
4. PubMedに近接演算機能追加 (149号)
5. 新着雑誌の貸出期間制限撤廃 (141号)

令和5年度については、時期が迫ってきた新キャンパスへの全面移転に向けて、オンライン資料の拡充、文献入手先の拡大、オンラインセミナー（ウェビナー）の新たな展開の3点を軸にさらなるサービスの向上を目指していきたくて思っております。

働き方改革だより

◎令和6年度～医師労働時間短縮計画を策定しました (Part. 2)

前号では、医師労働時間短縮計画のうち、「労働時間数や労務管理・健康管理」について紹介しました。今号は、主に、「タスクシフト・シェア」を取り上げます。

医師の労働時間短縮に向けた取組 タスクシフト・シェアについて

～計画期間 (令和6年度～11年度) 中の取り組み目標～

看護師 に関する記載内容	特定行為を行う看護師の養成について、 集中治療部・救命救急センターに常時配置するための必要人数：14名（1部署7名） これを実現するため、特定行為研修を修了した看護師を毎年2名以上増加 （※休暇や休業・昇格を考慮した数字）
医師事務作業補助者 に関する記載内容	医師事務作業補助者増員に向けた体制整備のため ・診療支援業務の標準化・キャリアパス/リーダーの整備 ・グループ制導入とリーダー育成 に取り組む

働き方改革推進委員会のもとに「タスクシフト・シェア部会」を設置

【令和4年度の主な検討内容】

- 「医師事務作業補助者」体制整備について、
 キャリアパスを制定し、グループリーダー制の運用を見据えた制度を構築
 →医療サービス課において、体制整備に伴う意向調査を実施したうえで、
 R5年度から複数診療科を複数の補助者が対応する体制へと順次移行
- 「医師及び看護職員の負担軽減及び処遇改善計画」を策定
 →院内掲示やホームページで公開
- その他、各診療科や部署におけるタスクシフトの取り組みについても意見交換

不明点や懸念点など、
お気軽に人事課へ
ご相談ください。

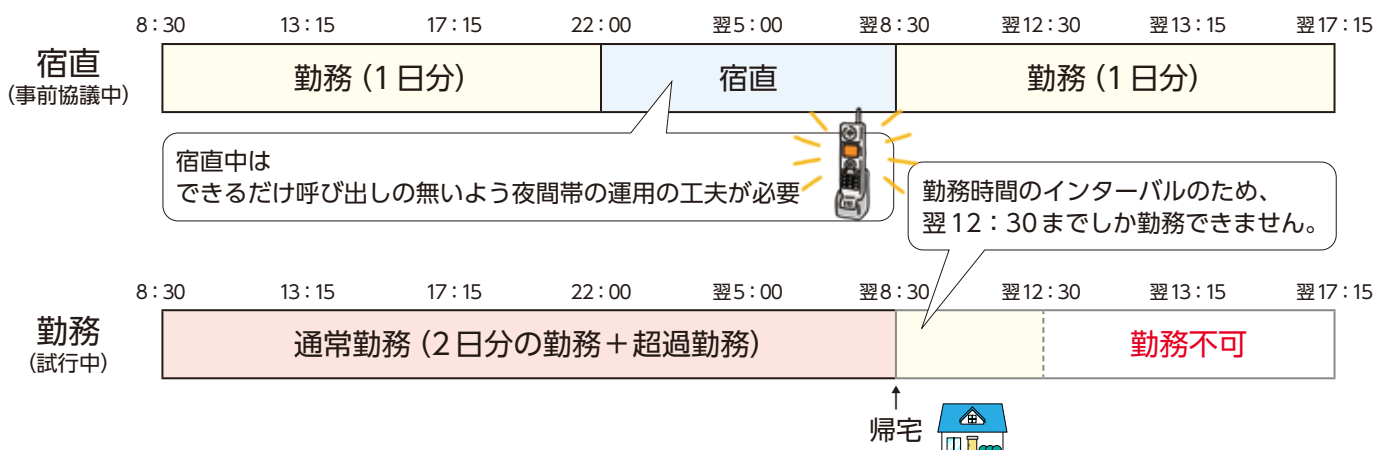


医師の労働時間短縮に向けた取組 夜間・休日の勤務の見直し

●各科の進捗状況

【夜勤化試行中】 ●産婦人科 ●循環器内科 ●NICU
 【宿日直許可申請を検討】 ●小児科 (労働基準監督署に申請中)
 ●呼吸器内科 ●耳鼻咽喉頭・頭頸部外科 等

【参考】宿日直許可を取得した場合と夜間勤務の場合の働き方の違い



看護部の紹介

医学教育等関係業務功労者 表彰

総合周産期母子医療センター 新生児治療部門
E棟4階 看護師 近藤 さつき

この度、文部科学省より医学又は歯学に関する教育・研究若しくは患者診療等に係る業務に関し顕著な功労のあった方を表彰する医学教育等関係業務功労者表彰をいただきました。ご尽力くださった方々に心より感謝申し上げます。

私は常々、奈良県立医科大学附属病院の看護師は、真剣に看護を行っていると思っていました。それを証明するには、行っている看護を形に表して残していく、さらに院内外にアピールすることが重要だと考えていました。今回の受賞はこれまでの多くの先生方、管理職の方々のご指導のおかげであり、一緒に働いてきたスタッフの皆様の多大なる努力に対していただいた賞であり、私はそれを代表して受賞したにすぎません。これからも自信と誇りをもって看護をしていただければ幸いです。本当にありがとうございました。



NCPR (日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法「専門」コース) インストラクターとして

総合周産期母子医療センター 新生児治療部門
E棟4階 新生児集中治療認定看護師 伊東 聖子

2007年から正式に始まった日本版新生児蘇生法普及講習会(以下NCPR)は15年が経ち、全国のAコース受講者数は20万人を超えています。奈良県立医科大学附属病院は奈良県唯一の総合周産期医療センターであるため、インストラクターも多く、院内向けのNCPRだけでなく、院外の医療従事者に向けてもNCPRを開講しています。

奈良県にはNICU、GCUのある病院が2施設と少なく、分娩取扱医療機関での出生数も多いです。各施設の医療従事者がNCPRを習得することでそれぞれの施設にあるものを使って、新生児が出生後スムーズに胎外呼吸循環に移行できるように、これからも周産期に関わる医療者全員で奈良県民が安心して出産できる環境を整えていきたいと考えています。

認定看護師紹介

認定看護分野 クリティカルケア
高度救命救急センター 看護師 中根 啓貴

私は特定行為を含む認定教育課程に通学し、同分野の認定看護師や自部署スタッフの方々からの多くのご支援・ご協力を頂き、修了する事が出来ました。私が認定看護師を志したのは、自分の無力さを経験した事がきっかけです。急変時に、患者さんに何が起きたのか把握できず、無力さを痛感しました。この経験から急性期における患者さんの力になりたいと強く思い、今に至ります。私自身、まだまだ未熟ではありますが教育過程の学びを活かし、重症病態の把握・早期回復支援、急変予測へ向けた活動を模索したいと考えます。また「場所」にこだわらない横断的な活動も検討できればと思います。一日も早く皆様の力になれるよう、今後も精進してまいります。



認定看護分野 クリティカルケア
集中治療部 C棟3階 看護師 南田 裕加

入職時より集中治療部に所属しており、より高度な知識技術を身に付けることで、患者・家族のニーズを捉えた個別性のある看護を実践できるようになりたいと考え、当資格の取得を目指しました。生命の危機的状況にある患者・家族がICUという特殊な治療環境下でも、常にICU退室後を見据え、「その人らしい生活」へ早期回復できるようチーム全体で支援することを目標に活動していきたいと考えています。患者・家族の小さな変化も見逃さず、認定看護師としてもタイムリーなケアの実践を行うことで、クリティカルケア領域全体の看護に貢献していきます。患者・家族に寄り添う気持ちを大切に、今後も日々努力していきたいと思っています。



「奈良デジタル戦略」とは？

医療情報部 部長 玉本 哲郎

みなさんは、「奈良デジタル戦略」について知っていますか。奈良デジタル戦略は、奈良県が2022年4月より3年間の予定で取り組んでいるプロジェクトで、「奈良新『都』づくり戦略」の着実な実行による「もっと良くなる奈良県」の実現に向けて、本県のデジタル化を推進するための基本的な考え方や実行計画等を盛り込んだものです¹⁾。また、官民データ活用推進基本法第9条に基づき、都道府県に策定が義務づけられている「都道府県官民データ活用推進計画」としても位置付けられています。2023年4月より奈良県の地域デジタル社会の構築により県民の幸福な生活の実現と地域の持続的な発展を図る条例として施行されています²⁾。

具体的には、5つの基本的な考え方と方向性として以下が挙げられ³⁾、(1)戦略の基本的方向性—住民起点の「できる化」と共同化、(2)民間との連携・協働と組み込み型サービス、(3)GX(業務のあり方の見直し)を前提としたDX(デジタルでの変革)、(4)デジタルデバイドの解消、(5)15年後のもっと良くなる奈良への飛躍で、これらに基づいて、3つの分野での「できる化」と8つのデジタル原則(プリンシプル)を目指すことになっています。3つの分野での「できる化」とは、1)行政の「できる化」、2)家庭(生活・医療・健康づくりなど)の「できる化」、3)経済(産業雇用・食と農・県土マネジメント)の「できる化」のことで、8つのデジタル原則(プリンシプル)とは、①マイナンバーカードの普及とマイナンバー・法人IDの利活用、②住民目線の仕組み、③モバイル接点、④情報連携とシステムの共

同化、⑤クラウド by デフォルト、⑥県・市町村・準公共分野の協働 ⑦情報セキュリティ・個人情報保護の確保、⑧デジタルデバイドへの対応のことで、内容の詳細については、図1に示す通りです。さらに、当面の主要テーマと重点プロジェクトとして、8つのテーマが挙げられています(図2)。

このうち、奈良医大に関係する点としては、テーマ2のデジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出で、「医療・福祉・救急間の医療情報の連携」と「電子カルテ等の病院システムのクラウド化・共同化」に対する対応が今後必要となると思われます。医療・福祉・救急間の医療情報の連携については、2023年3月に厚生労働省より通知された2文書6情報の対応で可能と思われませんが、電子カルテ等の病院システムのクラウド化・共同化については、奈良県はいわゆる県立系7病院での実施を目指していますが、病院の規模、診療体制、電子カルテシステムや部門システムなどが異なり、達成には各施設の協力と、行政のリーダーシップおよびマネジメント力が必要と考えています。

参考資料

- 1) 奈良デジタル戦略 <https://www.pref.nara.jp/secure/264879/naradeditarusenryaku202304.pdf>
- 2) 地域デジタル社会の構築により県民の幸福な生活の実現と地域の持続的な発展を図る条例 https://www.pref.nara.jp/secure/292841/jyorei_digital.pdf
- 3) 奈良デジタル戦略の概要 <https://www.pref.nara.jp/secure/264879/naradeditarusenryakugaiyou.pdf>

奈良デジタル戦略の概要 1

1. 基本的な方向性等 行政サービスのユーザーである住民のために「デジタル化によりできること」を実現する

1. 住民起点の「できる化」と共同化

- 課題解決志向で、まずは丁寧に、住民のどのような課題を解決したいのかを聞き取り、解決のためにどう業務のあり方を組み替えるか、その際にデジタルで何ができるのかを検討し、住民の課題解決等に役立つシステムやサービスを導入
- 「開発-所有」から「サービス利用」への移行と共同利用(=デジタル奈良モデル)を旨として取り組み、市町村等々を支援

2. 民間との連携・協働と組み込み型サービス

- ユーザーエクスペリエンス(住民体験)を飛躍的に向上

3. GX(業務改革)を前提としたDX(デジタルでの変革)

- 業務や事務のあり方をデジタルによる知能を前提に見直し
- クラウド[※]による対応をすべての業務領域で原則化

4. デジタルデバイドの解消

- 地理的・身体的・経済的な制約の有無にかかわらず、必要なデジタル・サービスが利用できる環境を最大限確保

5. 15年後のもっと良くなる奈良への飛躍

- 大和野中央スーパーシティ構想の原動力に

8つのデジタル原則

- ① マイナンバーカードの普及とマイナンバー・法人IDの利活用
- ② 住民目線の仕組み
- ③ 情報連携とシステムの共同化
- ④ 県・市町村・準公共分野[※]の協働
- ⑤ 情報セキュリティ・個人情報保護の確保
- ⑥ デジタルデバイスへの対応
- ⑦ クラウド by デフォルト
- ⑧ 県・市町村・準公共分野[※]の協働

3つの分野での「できる化」

- ① 行政の「できる化」
 - 住民ひとり一人に最適にカスタマイズされた行政サービス
 - 巨額の調達 確実な支援(キャンペーン、給付金等)
 - お年寄りや外国人に寄り添った窓口・情報発信
 - 文化・観光情報のデジタル化等での発信
 - デジタルで業務が完結し、大幅に業務が効率化等
- ② 家庭の「できる化」
 - 「住むと元気になれるまち」の創出
 - より安心で効率的な救急医療の実現
 - 位置情報を活用したカスタマイズされた観光・災害避難情報
 - 高齢者や子育て家庭が抱える課題の解決等
- ③ 経済の「できる化」
 - 先端技術の導入支援による事業者の生産性と収益力の向上
 - 雇用と収益につながる日本唯一のリカレント教育の展開
 - 食と農の新しい生産者と消費者の関係構築と販路の創出
 - 県土マネジメント・建設業等の高度化と強い手支援等

対象期間: 令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年間)
※ 必要に応じ、期間中においても適宜改定を実施し、以降更新

図1

奈良デジタル戦略の概要 2・3

2. テーマと重点プロジェクト等

(1) 当面の主要テーマと重点プロジェクト

テーマ1	行政手続・業務の組み直しによる行政サービスの刷新	テーマ7	雇用と生産性向上や収益拡大等につながる日本唯一のリカレント教育の展開
テーマ2	デジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出	テーマ8	県土マネジメント等のデジタル・トランスフォーメーション
テーマ3	子育て家庭や高齢者が抱える課題の解決		
テーマ4	南部・東部地域の健康増進・生活支援		
テーマ5	デジタルを活用した事業者の経営改善		
テーマ6	食と農の収益力向上と販路の拡大		

(2) プロジェクトの基本構造 (アーキテクチャ)

住民

個人・個人IDによる認証

住民のしたいことを実現し、課題を解決するモバイル・アプリ

データ・標準仕様による情報連携基盤

準公共分野も含む共同化・クラウド移行したシステム

県の 基幹システム

準公共分野の 基幹システム

準公共分野の 基幹システム

※ 病院、福祉施設、学校、各種機関等

3. 戦略の推進方針等

(1) 推進体制

- 庁内体制 - 戦略本部で、部局横断的に推進
- デジタル人材の確保とネットワーク形成
- 内部での育成 (基礎的リテラシーとコア人材育成)
- 外部の民間人材の活用と連携・協働(ネットワーク形成)

(2) 市町村との連携・協働

- 連携・協働とシステム共同化、重点的な支援(デジタル奈良モデル)

(3) 制度やシステム環境の見直し

- 奈良デジタル戦略を推進するための実例等の制度整備
- 組織内外との連携・協働を推進するシステム環境の見直し(βへの移行)

図2

1.30
~
2.3

医学看護学合同教育科目「奈良学」を開講しました

奈良学は、奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、県の医療状況について学び、奈良の医療に対する意識を涵養することを目的に開講しています。また、本科目は、医学科1年生と看護学科1年生の合同講義として開講しており、医師・看護師の多職種連携の基盤形成を図ることも目的に医看合同科目として実施しています。

令和4年度は、1月30日(月)～2月3日(金)の5日間、集中講義として実施しました。昨年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響で、フィールドワークや病院見学実習を遠隔で実施する等、実施形態を変更していましたが、今年度は、大部分をコロナ禍前と同様の実施形態等で実施しました。

■ 奈良の文化・歴史・自然学習

奈良の文化・歴史・自然について、座学で学んだ後、医学科と看護学科を混ぜた約8名ずつのグループに分かれ学生自身でフィールドワークの計画を立て、県内6か所で自然散策を行いました。

《今井町の歴史(座学)》

今井町町並み保存会の中西会長をお招きし、本学の近隣に位置する今井町の歴史について講義をしていただきました。

講義では、今井町の起りから重要伝統的建造物群保存地区の指定を受け、現在に至るまでの歴史を説明され、学生は、今井町をより身近に感じる事ができたようでした。



今井町パンフレット

《深イ奈良の歴史&文化(座学)》

奈良まほろばソムリエの会の鉄田専務理事をお招きし、奈良県の歴史と文化について講義をしていただきました。

地域性から県を4つのエリアに分け、各エリアの特色や観光地等を説明していただきました。学生は、県外出身者も多く、奈良について幅広く、楽しく知ることができたようでした。

《奈良県の地理・気候・自然災害(座学)》

大阪府都市整備部事業調整室の瀧澤主査をお招きし、奈良県の地理や気候、自然災害について講義をしていただきました。

学生からは、奈良県の災害について学ぶことで、将来、医療従事者となった際、災害時の救急医療に役立てることができるとの声も多数ありました。

《フィールドワーク》

奈良市東部、奈良市西部、大和郡山市、斑鳩町、桜井市及び明日香村の6コースに分かれ、グループごとに作成した計画書に沿ってフィールドワークを行いました。学外に出て行う授業は、入学後、初めてのためか、最初は戸惑いながら参加している学生もいる印象でしたが、実際にフィールドワークを終えると、直接、寺社を訪れることで、奈良の魅力を再発見した、皆で協力して計画を立て、実際に現地を訪れたフィールドワークは今後のコミュニケーションに使える等の感想が多数ありました。



薬師寺 (A班)



石舞台古墳 (I班)

また、フィールドワーク終了後、大学に戻り、見学地ごとに写真、解説、見どころ及び豆知識などを、グループごとに報告書を作成しました。

■ 奈良の医療についての学習

3日間を通して、奈良の医療について学びました。

初日は、グループごとに見学先の病院について事前学習した後、県内13病院で病院見学を行いました。2日目は、本学の過去・現在・未来、奈良県の医療について座学で学んだ後、奈良県の医療における課題及び解決策をグループディスカッションし、発表資料を作成しました。最終日は、前日に作成した資料を用いて、奈良県の医療に関する発表会を6つの会場に分かれて行い、各会場から選ばれた最も優秀なグループ1組がシンポジウムで発表しました。

《病院見学実習》

奈良県内の13病院に分かれ、病院見学を実施しました。各病院からは、地域医療の現状等を踏まえて、病院の概要、地域やコロナ禍での役割、立場などをご紹介いただきました。また、病院ごとに、8テーマ(地域医療、在宅医療、へき地医療など)が割り振られ、グループワーク及び発表会に向けて、見学先の医師や看護師、メディカルスタッフのお話を熱心に聞き、活発な質疑応答が行われました。

対面で病院見学を実施した病院では、1年生の授業では普段見ることのできない、外来、検査室、手術室及びドクターヘリなどを見学させていただき、初めて見る病院の設備、機器に直接触れる体験実習を行い、興奮している学生も多数いました。学生は、実際に見学させていただくことで、将来、医療人となることを実感し、医療について学ぶモチベーションが上がったようでした。

《本学の過去・現在・未来(座学)》



南奈良総合医療センター (15班)



済生会奈良病院 (11班)

細井学長から、本学の過去・現在・未来と題して、講義をしていただきました。奈良学の目的を始めに話されたうえで、ご自身の業績に触れられながら、本学の独創的な取組のひとつであるMBTについて講義し、新キャンパスの構想も説明されました。最後に、学長の信念を話され、学生へ挑戦する気持ちを常に持ち続けるよう、激励の言葉を贈られました。



講義をされる細井学長

《奈良県の医療（座学）》

奈良県医療政策局の平局長から奈良県の医療について遠隔で講義をしていただきました。

講義では県の医療政策は、国の動向を踏まえつつ、県内の地域性を考慮してデータに基づき展開していることを、現在の取組状況や今後の方針を交えて説明されました。学生は、これまで学習した内容や病院見学がこの講義と結びつき、奈良県の医療について学びを深めることができたようでした。

《奈良県の医療と病院に関する発表会の資料作成》

病院見学実習ごとに設定されたテーマに沿って、奈良県の医療における課題の明確化、優先順位の決定と解決策の検討を行いました。

課題の明確化はKJ法を、設定した課題の解決順の決定は2次元展開法を用いました。縦軸を重要性、横軸を緊急性としたグラフに、KJ法で明るみになった課題点を配置し、両方の指標が高いものから最優先課題を決定したうえで、解決策の検討と対策を考えました。

また、決定した対策を元に、病院見学実習で学んだことや医師・看護師が地域医療に求められること等をまとめ、発表資料を作成しました。



グループワークをする学生と指導される若月先生



グループワークの成果

《奈良県の医療と病院に関する発表会》

22班を6会場に分け、発表会を行いました。

会場ごとに教養教育部門と看護学科の教員各1名がファシリテーターとして支援し、発表の仕方や資料の見せ方等についてコメントしました。

すべての班の発表後、午後のシンポジウムで発表する代表班を学生自身の話し合いにより選出しました。会場によっては、シンポジウムで発表する代表班のために、会場の学生が意見を出し合い、発表内容や方法のブラッシュアップを行いました。

《奈良県の医療と病院に関するシンポジウム》

病院見学実習先から6名の方をコメンテーターとしてお招きし、大講堂でシンポジウムを開催しました。司会は、地域医療学講座の大前助教、ファシリテーターは、嶋医学部長と教育開発センターの若月教育教授が担当されました。

午前の発表会で代表となった6班が発表を行い、各班の発表後にはコメンテーターの方々から実際の医療状況や各病院の現状、取組み内容も踏まえてコメントをいただきました。すべての班の発表後に、全22班が投票を行い、1位～3位には嶋医学部長から表彰を行いました。

シンポジウムの最後には、コメンテーターの方々から講評を賜りました。コメンテーターの方からは、病院見学実習を含めた様々な授業が発表に活かされていることに感心したことや、今回の経験も踏まえ奈良県の医療に興味を持った学生と一緒に働きたい、是非来年も病院見学に来てほしいなどのコメントがありました。実際に見学した病院の方からお話を聞くことで、奈良の医療について考える学生にとって、かけがえのない貴重な体験となりました。

【コメンテーター】

奈良医療センター	大西明子 副看護部長
済生会奈良病院	古川優子 副看護部長
奈良県西和医療センター	土肥直文 病院長
	竹之内美栄 看護部長
南奈良総合医療センター	森春枝 看護部長
宇陀市立病院	山内麻里子 看護部長



講評をされる嶋医学部長



1位の班



2位の班



3位の班

奈良学は病院見学やシンポジウムにより、自身の将来の医療者像を育むことができる授業だと思います。私はへき地医療に力を入れている病院に見学に行きました。そして、その病院がどのように問題に取り組んでいるのかなどを知り、その学びをシンポジウムで他の学生と共有することで、私自身もより理解を深めることができました。私は奈良学を通して、奈良県の医療について知り、将来より一層奈良県の医療に貢献したいと思えるようになりました。

最後に、見学に行かせていただいた各病院の皆様、ご多忙中にも関わらずお時間を頂戴し、誠にありがとうございました。

1位となった18班を代表して看護学科の有谷さん

■ 奈良学を受講した学生の感想

私は今回の奈良学を通して、地理や歴史、郷土料理など多角的な視点から奈良を理解することができました。奈良県立医科大学には、奈良県以外からの入学者も多くおり、その人たちにとっては自分の通う学校の位置する県についてよく理解し、愛着心を持つきっかけに、奈良県出身の入学者にとっては、さまざまな背景を持つ人たちと共に地元について学ぶ良いきっかけになったのではないかと思います。奈良県立医科大学のカリキュラムの特徴でもある奈良学は、誰にとっても新しい学びを得る良い機会になると確信しています。

医学科総代 和田さん

奈良学の魅力は、5日間の短い期間で様々な場所に足を運び、感じ、考える主体的な学びができること、グループワークを通じて学生同士の交流ができることです。学科関係なく色んな人と交流できたことで、楽しく学ぶことができました。「奈良って面白いんだ!」と再認識し、「もっと知りたい!」と地元愛を深めることができました。ここでの学び、経験を忘れず、地域医療を担うものとして日々精進していきたいと思えます。

看護学科総代 竹本さん

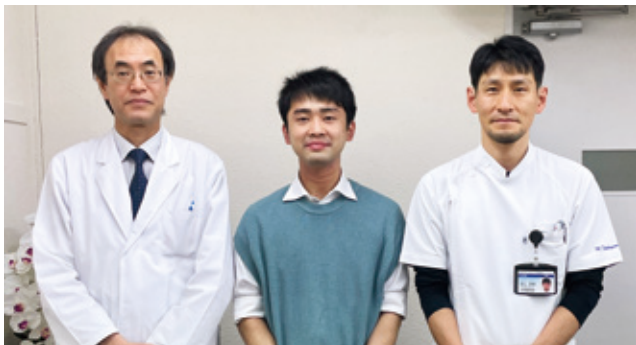
1.6

リサーチ・クラークシップ参加学生の論文が日本血液学会英文誌に掲載されました

医学科6年(当時) 柴崎 史隆

この度、「High levels of factor VIII activity in patients with acquired hemophilia A in remission are associated with unusually low coagulation potentials」の筆頭著者として International Journal of Hematology にご掲載いただきました。2年次のリサーチ・クラークシップから研究に携わらせていただきましたが、このような形でご掲載いただけたことを大変光栄に思います。

ご多忙の中、ご指導いただいた武山先生をはじめとした小児科学研究室の先生方や、ラボテクニシャンの方々に厚く御礼申し上げます。



野上教授、柴崎君、武山准教授

1.24

新年度に向けたイベント出展検討が始まりました

MBT 研究所では、定期的に MBT 活動についての進捗報告、各種企画調整のための運営会議を行っています。

令和5年第1回目の運営会議では、1月14日に東京にて開催した第2回 MBT 映画祭の開催報告が実施されました。参加者傾向や当日スタッフからのコメントを参考として今後の課題を洗い出すとともに、次回以降の開催に向け解決策の検討を行いました。

また、けいはんな学研都市や経団連などの連携先との共同事業の進捗状況について全体へ共有が行われ、次年度以降開催予定の連携先イベント等への参加検討も始まりました。

今後も MBT の成果を広く知っていただけるよう、連携機関と共に様々な事業に取り組んでまいります。



2.1

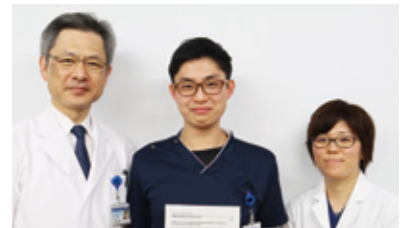
医学科6年生今津君筆頭著者の論文が Langenbecks Arch Surg 誌に掲載されました

医学科6年 今津 勇輝

2年次のリサーチクラークシップより継続していましたが研究の成果が“Distinct role of tumor-infiltrating lymphocytes between synchronous and metachronous colorectal cancer.”として Langenbecks Arch Surg 誌に掲載されました。本研究では同時性 / 異時性大腸癌肝転移における免疫学的応答の相違を検討しました。ご指導賜りました庄雅之教授、松尾泰子先生をはじめ共著者の先生方、消化器・総合外科学教室の先生方、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。今後も精進してまいりますので、ご指導のほど何卒よろしくお願いたします。

消化器・総合外科学 教授 庄 雅之

この度、今津勇輝君が筆頭著者である論文が、Langenbecks Arch Surg 誌に掲載されました。本研究では大腸癌肝転移における同時性 / 異時性転移の相違に関して、機序の一旦を免疫学的アプローチにより新たに解明しました。今津君は当教室でのリサーチクラークシップ以降、地道な研究活動を続け、着実に成果も出し続けています。今後、益々大きく成長し、国内外で活躍できるように、教室としてもできる限りのサポートを行なっていきたいと思います。



庄教授、今津君、松尾診療助教

2.1

叙勲伝達式を行いました

叙勲は、国家または公共のため功労のあった方を対象に授与されています。

令和4年11月3日に令和4年秋の受章者の発令があり、元中央放射線部技師長(H19.4.1~H25.3.31)兼 元附属病院副院長(H19.5.1~H25.3.31)の上野山文男氏が瑞宝双光章を受章されました。新型コロナウイルス感染症の影響で勲章伝達式が実施されなかったため、細井理事長・学長から2月1日に伝達させていただきました。瑞宝双光章の受章、心からお祝い申し上げます。



西村技師長、細井理事長、上野山氏、吉川病院長

2.6

令和4年度FD・SD講演会を開催しました

女性研究者・医師支援センターでは、教育開発センター、人事課と共催でFD・SD講演会をWeb開催しました。島根大学保健管理センター 河野美江教授をお招きし、「大学における性暴力への対応—予防から被害者支援まで」についてご講演いただき、1.性暴力とは何か 2.大学における性暴力の現状 3.性暴力被害を受けた学生への支援 4.性暴力に対する予防教育について実例を交えわかりやすくご説明いただきました。講演会には教職員104名の参加申込みがあり、51名の方々が「わかりやすくて勉強になった」、「性被害の多さに驚いた」等、アンケートにご意見をお寄せくださいました。

講演会資料一式を希望される方は、女性研究者・医師支援センター（内線2525もしくはjshien@naramed-u.ac.jp）までご連絡ください。



島根大学 河野美江教授

2.12

漢方診療の体験型セミナーを開催しました

漢方医学とは5～6世紀に伝来した中国医学が日本の風土や文化の中で、日本人の体質や生活に合うよう少しずつ進化・発展してきた日本独自の伝統医学です。漢方診断はこれまで暗黙知に頼ってこられ、また専門知識を必要とするため、広く普及していないのが現状です。

本学の和漢方医学薬学センターでは、この日本独自の医学の普及を目指して医療者向けの講習会を定期的で開催しており、今回は厳櫃会館で体験型の講習会を開催しました。

当日は、共催者であるツムラ株式会社からの漢方薬の製品情報に始まり、センターの三谷和男先生の講義、本学皮膚科濱田先生による症例検討会、最後是三谷先生指導のもとシミュレーターを用いた実技を行いました。三谷先生の講義では、現代に求められる東洋医学の在り方をお話いただきました。参加した医療者たちは、熱心に三谷先生の指導・講義を聞いておられ、漢方の普及に貢献できたと思います。



三谷先生の講義



実技の様子

2.16

模擬国連世界大会 (NMUN: National Model United Nations) ニューヨーク大会参加決定

ポストコロナ時代を見据え海外との交流が急速に再開される中、臨床英語講座に朗報が届きました。4月にニューヨークで開催される模擬国連世界大会 (NMUN・NY2023) へ奈良県立医科大学チームが参加できるようになったのです。遠征するのは、ディベート経験を積み重ねてきた2年生から6年生までの強者揃いのチームで、活躍が期待されます。

模擬国連は、国連総会や国連各種委員会を模したフォーラムです。学生には事前に担当する国と議題が与えられており、世界中から集まった学生達と英語だけで議論や交渉を行い、協力して解決案を探っていきます。模擬国連を通じて、学生たちの英語力が飛躍的に向上することはもちろん、国際的社會問題への理解が深まり、グローバルな交渉術が鍛えられます。

今回初参加となるニューヨーク大会は、毎年春にマンハッタンにて開催される世界最大の模擬国連であり、参加資格があると認められ、推薦された強豪校のみが参加できます。100ヶ国を超える国々から5,000人以上が集まり、熱い議論を繰り広げます。最終日に予定されている閉会式は、国連総会で実際に使われる国連本部の総会ホールを貸し切って執り行われます。また、国連本部事務局との交流の場も設けられており、国際人としての活躍を志す本学の学生たちにとって非常に有益な経験になるでしょう。

臨床英語では、2018年から本学の学生たちの模擬国連への参加や参加者を対象としたディベート教育に尽力してまいりました。4年間にわたる学生有志の努力と臨床英語のサポートの成果として、2022年11月に神戸で開催された模擬国連世界大会 (NMUN・Japan 2022) では、本学チームは世界各国から集まった英語ネイティブスピーカーとも渡り合い、参加者の上位5%にのみ送られる賞を受賞し、国内外から、論理的思考と英語力において、高い評価を得るまでに成長しました。

新しい人材の育成にも力を入れており、今後の飛躍が楽しみです。どうぞご支援の程、よろしく願いいたします。



NMUN Japan 2022 本学チームとボルスタッド教授

2.16 大和平野中央田園都市構想第2回フォーラムでパネル展示を行いました

奈良県は、大和平野中央地域の磯城郡3町（川西町、三宅町及び田原本町）を中心に、住みやすい Well-Being なまちづくりに取り組む大和平野中央田園都市構想を進めています。

今回、奈良県コンベンションセンターで第2回目となるフォーラムが開催され、令和3年11月以来、コンソーシアム形式で検討を重ねてきた大和平野中央田園都市構想のまとめが、奈良県荒井知事より紹介されました。会場では、先に3町の Well-Being なまちづくりの実現に繋がる実証実験として採択された、MBT 研究所梅田副所長が実施のテーマ「センシング技術を活用した、健康増進・高齢者見守りを叶えるウェルネスタウンの形成」のパネル紹介もなされました。MBT は、引き続き大和平野中央田園都市構想の検討に参加、支援を行ってまいります。



荒井知事からの構想紹介



MBT が推進する実証実験の紹介パネル

2.17 TQM 大会表彰式を行いました

附属病院において、TQM (Total Quality Management (総合的質管理)) 活動の取り組みを推進しています。TQM 活動は、職員自らが日頃感じている具体的な課題や問題点について、主体的に課題解決に取り組むことで、職員の改善意識の向上を図り、さらに活動成果を病院の業務等に生かすこと、そして医療・サービスの質を継続的に向上させていくことを目的として取り組んでおり、活動成果を発表する場として、毎年 TQM 大会を開催しています。

今年度で8回目となる本大会は、新型コロナの影響及び大会動画をより多くの職員・学生に視聴いただくことを目的に、WEB 上で開催しました。参加した全 11 チームには、趣向を凝らした動画 (成果発表) を作成いただき、日々の業務の中から生まれた問題点とそれに対する課題・改善行動は各チームの特色が見え、他職種にも参考となる内容もありました。医療・教育質向上対策プロジェクト委員が、その動画を視聴・審査を行い、各賞が決定され、2月17日に表彰式を行いました。



1 位 笑顔を君に届け隊の皆さん・吉川病院長・川口プロジェクトリーダー



表彰式

チーム名	活動テーマ	所属	賞
笑顔を君に届け隊	エビデンスとコストに着目した業務環境改善	NICU/ 医療技術センター / 感染管理室	1 位
疑義照会を何とか SHOW 会	安心安全なお薬提供の防波堤	薬剤部	
社会人教育係	来て診て出会って良かったと思える医療従事者を目指して	医療技術センター	
Let's go! タスクシフティング♪	タスクシフトで業務改善	医療技術センター / 感染管理室	
総合周産期母子医療センター とにかく、母の笑顔を守り隊!! ♪	～周産期から新生児期へシームレスケアを目指して～	総合周産期母子医療センター	2 位
CE の機器研修向上委員会	もう何も怖くない! 医療機器のすべてがここに!	医療技術センター	
チーム D	You は何しに中庭へ?	精神医療センター	プロジェクト リーダー賞
輸血の戦士	【神回確定】 初コロボ 輸血部 中央手術部 #緊急輸血シミュレーションやってみた	輸血部 / 中央手術部	
子どもの安全守る多職種チーム	安心・安全な小児鎮静 MRI 検査の実施に向けて	中央放射線部 / 放射線・核医学科 / 小児科	3 位
医療安全	インシデント影響度分類レベル 0 (ゼロ) の報告を増やそう	医療安全推進室	
TEAM STROKE	あなたは鳴らせますか!? 脳卒中アラート	脳卒中センター	院長賞

2.18

「伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業」の啓発活動の一環として、市民公開講座を開催しました

佐々木 亮太先生「その体の動かしにくさ、治せるかもしれません ～パーキンソン病に思いを巡らせる～」、古家一洋平先生「頭をぶつけた！さあどうしよう？～頭部打撲時の注意点～」、竹島靖浩先生「元気に歩き続けるために：背骨の病気との付き合い方」の3名の先生方にご講演頂きました。新型コロナウイルス感染症予防のため、人数を制限しての開催となりましたが、皆さん熱心に耳を傾けていただき大変喜んでいただきました。



講演会の様子

2.18

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」がイベント登壇

Beyond Next Ventures 株式会社主催、未来の起業仲間を探したい研究者とビジネスパーソンの交流・マッチングイベント「BRAVE GATE Meetup」で、奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」代表取締役・森英一朗（本学・未来基礎医学）がトークセッションに登壇しました。リージョナルフィッシュ株式会社（京大発）・代表の梅川忠典氏とジェリクル株式会社（東大発）・代表の増井 公祐氏と共に、「研究者とビジネスパーソンが共同創業するうえで何を意識すべきか」といった議題について、大学研究をビジネス化した当事者の視点で議論しました。



議論する森社長

2.19

臨床研究 県民公開講座をハイブリッド形式で開催しました

臨床研究センターは、奈良県コンベンションセンターにて、第6回奈良県立医科大学附属病院 臨床研究 県民公開講座「県民とともに創る未来への医療—不眠のおはなし—」（後援：奈良県、奈良市）を開催しました。

今年も、会場とオンラインとのハイブリッド形式により実施し、170名を超える県民にご参加頂きました。笠原正登 教授（臨床研究センター）による開会の挨拶の後、平田匠 特任准教授（臨床研究センター）による「睡眠に関する臨床研究のいまとこれから」についてのお話につき、鳥本一匡 准教授（泌尿器科学）からは「睡眠と夜間頻尿」、牧之段学 准教授（精神医学）からは「睡眠障害が心身に及ぼす影響」についての講演を頂きました。

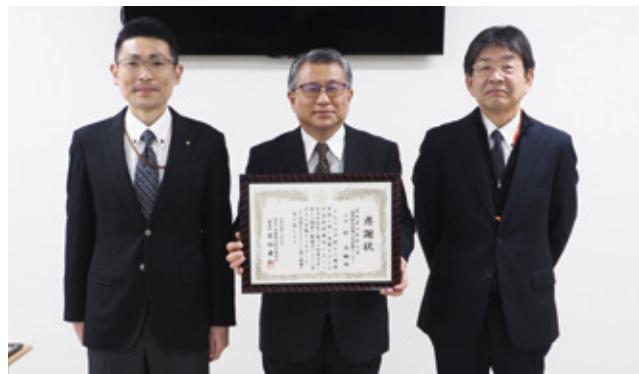


2.20

神奈川県警から感謝状が贈呈されました

小児センター 病院教授（脳神経外科学 准教授） 朴 永鉄

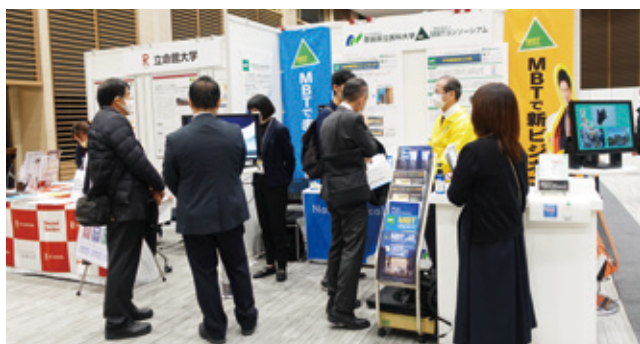
虐待による乳幼児頭部外傷により、生命を失ったり重篤な後遺症が生じたりする重大事案が日本全国で発生しています。正確で適切な医学的な検証が事件解決に求められます。私は、この分野の専門家として、全国の捜査機関（警察）や司法機関（検察）に協力して参りました。その件数は優に100件は超えています。今回、その業績により、神奈川県警から感謝状が贈呈されました。一人でも多くの子供たちを虐待から護るのが我々の使命と考えております。



Campus News

2.21 2.22 イノベーションストリーム KANSAIに参加しました

関西の大学、研究機関等による最先端の技術やサービス、大学発スタートアップ企業などの研究成果を体験できる展示会（グランフロント大阪北館の地下2階コングレコンベンションセンターで開催）に参加しました。奈良医大は、MBT コンソーシアムと連携して活動成果のブース展示を行いました。展示した「MEP用弾性ストッキング」「手指機能強化手袋」は、会員企業の特殊編み物技術で開発し、奈良医大の研究者が医学的評価を行い有効性を確認したもので、MBT ロゴマークの承認も得て商品化に至りました。ブースを訪れた関係者からは、活動成果に至ったプロセスの熱心な質問等もあり、実りある展示会出展となりました。



展示ブース

2.28 大和平野中央田園都市構想関連事業 MBTモニター報告会を行いました

奈良県から補助を受け、大和平野中央田園都市構想関連事業として、磯城郡3町から募った住民モニターに対して3カ月間（2022.12～2023.2）ウェアラブルウォッチによる生体情報・活動情報の計測を行い、体重・血圧・睡眠、日々の生活行動についてのデータを取得しました。

この調査結果をもとに健康状態を数値化し、田原本町役場においてMBT研究所の梅田副所長が報告されました。健康意識の向上を図ることを目的として集計された今回のデータを、新しい健康サービスに利用していく予定です。参加者からは、「健康を意識するようになった」、「日々の変化が楽しみになった」との感想をいただきました。

今後は、得られたデータを活用し、個人や地域への還元などを進めていきたいです。



MBTモニターに結果報告をされる梅田副所長

3.1 産学官連携活動の最新状況を 共有しました

3月のMBT研究所運営会議では、「イノベーションストリームKANSAI6.0」の所感や企業発のサイエンスパークである湘南iParkが新たな連携先に加わることが報告されました。近年は新型コロナウイルス流行の影響で、あまり接点のない他大学や企業と意見を交わす機会が少なくなっていたこともあり、今後の参加展示会や交流会での情報交換が産学連携活動の活性化に繋がることが期待されています。

また、日常生活で収集したバイタルや気象データ等の蓄積を使用して顧客特性に合わせた健康ソリューションを提供する「MBTLink HealthCare サービス」の実装例の紹介として、コミュニケーションロボットを使用した実演も行われました。

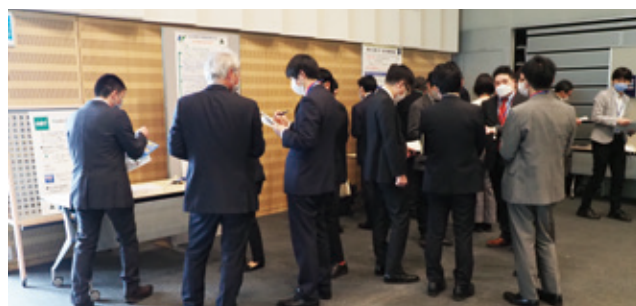
本学のこれまでの研究・活動成果を社会に還元していけるよう、これからも活動に尽力してまいります。



ロボットを使った実演

3.3 アカデミア×iPark 産学交流イベントに参加しました

アカデミアと企業のマッチング促進が目的の「アカデミア×iPark 産学交流イベント」（湘南ヘルスイノベーションパーク開催）に参加しました。イベントでは、主に大学の産学連携担当者と企業の研究部門担当者がお互いに抱える問題を本音でディスカッションしたうえで、各大学ブースを企業担当者が訪問するスタイルでした。奈良医大は、MBTの産学連携活動の事例や大学発のベンチャー企業をブース展示にて紹介しました。ブースには本学の取り組みに関心を持った製薬メーカーや化学メーカーの担当者が次々と訪れ、熱心な質問を受けました。当イベントの参加は、本学の産学連携活動を広く知っていただくとともに、各企業のニーズを知る機会となりました。



交流会ブース

3.8 3.10 ファーマラボEXPO大阪に 研究シーズを出展しました

医薬品の研究・開発に関わる製品・サービスが一堂に出展する西日本最大の専門展示会「ファーマラボ EXPO 大阪」が3日間にわたり開催され、本学から化学教室の酒井教授が「備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究」と題して研究成果ポスターの展示および講演を行いました。

酒井教授が開発した人工赤血球は、室温で長期間備蓄ができ、また血液型が無いので差試験が不要で、必要時に即座に投与が可能なので、術中の突発的な出血や、救急救命医療に威力を発揮するものと期待されます。出展ブースには多くの方々にお立ち寄りいただき、今後の共同開発等が期待されます。



酒井教授による研究シーズ発表

3.11 第4回難病克服支援 WEBセミナーを開催しました

MBT 研究所では「難病克服キャンペーン」を推進しており、難病の人々の状況や最前線の難病治療を知っていただくためのWEBセミナーを定期的に開催しています。

第4回目となるセミナーでは、千葉大学脳神経内科の三澤園子先生、競泳の池江璃花子選手の母である池江美由紀氏を講師にお招きしご講演いただきました。第1部の三澤先生のご講演では「患者さんとくすりをつなぐ」と題して、これまでの難病治療薬開発にかかる体験や薬事取得までの課題等をご紹介いただきました。第2部の池江氏のご講演では、次女の璃花子さんが白血病を宣告された際の驚きと、復活に向けて親子で取り組んだ闘病生活の様子をご紹介いただき、自分を信じること、人間力を育てることが闘病を克服できたポイントであると締めくくられました。

今後も定期的にセミナーを開催し、多くの方々に難病やそれに向き合う人々への理解を深めていきたいと思っております。



3.13 協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました

協定大学である奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化を目的に、令和元年度より共同で共同研究助成事業を行っています。今年度は、下記採択課題について、助成事業終了による成果報告会を開催しました。

〔膵臓癌における patient-derived xenograft mouse model を使用したテーラーメイド治療の開発〕

本学代表者：消化器・総合外科学 教授 庄 雅之
奈良先端大共同研究者：腫瘍細胞生物学研究室 教授 加藤 順也



消化器・総合外科学 庄教授 放射線診断・IVR学 田中教授

〔慢性運動器疼痛に対するカテーテル治療における新規高分子微粒子の開発〕

本学代表者：放射線診断・IVR学 教授 田中 利洋
奈良先端大共同研究者：ナノ高分子材料研究室 教授 網代 広治

また、報告会后、協定大学共同研究助成事業の選考委員会を行い、令和5年度の採択課題は、下記の3件に決定しました。

- ・ 集団行動解析システムによる第15染色体ダイソミーが行動に及ぼす影響と前頭前野病態生理基盤の解明
本学代表者：精神医学 山室 和彦 学内講師
奈良先端大共同研究者：数理情報学研究室 池田 和司 教授
- ・ 動植物におけるゲノム刷り込み機構の平行進化と分子メカニズムの解明
本学代表者：発生・再生医学 小林 久人 准教授
奈良先端大共同研究者：花発生分子遺伝学研究室 伊藤 寿朗 教授
- ・ 複数他者会話傾聴時のASD患者の視線活動分析とその訓練
本学代表者：精神医学 浦谷 光裕 学内講師
奈良先端大共同研究者：知能コミュニケーション研究室 中村 哲 教授

3.14 令和4年度 リサーチ・クラークシップ成果発表会を開催しました

医学科2年生を対象に、学内の研究室及び学外の大学・研究機関で研究室配属実習を行う「リサーチ・クラークシップ」を1月4日(水)～3月14日(火)の約10週間実施しました。本科目は、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得することによって、研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解して research mind を培うことを目的としたプログラムです。科学的探究心の醸成と広い視野を持つ人材の育成を目的に、本来は、海外にも学生を派遣していますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、学内55教室及び国内の22機関に学生を受け入れていただきました。最終日には、10班に分かれて実習成果の発表を行いました。



成果発表会 優秀賞受賞者の表彰式

消化器・総合外科学講座の庄雅之教授のご紹介で、九州大学病院別府病院外科の三森功士教授のもとで2か月間、「肝細胞癌の新規ドライバー遺伝子の同定と作用機序の解明」をテーマに勉強させていただきました。私は今まで、研究についてあまり興味がなかったのですが、リサーチ・クラークシップを通して、臨床の場において治療に選択肢があるのは、基礎研究を積み重ねた結果であることを実感し、研究の重要性について改めて考えさせられました。この機会をきっかけに、より一層勉学に励みたいと考えています。

最後になりますが、九州大学病院別府病院外科での研究の機会を与えてくださった庄教授、三森教授はじめ関係者の皆様、そして未来への飛躍基金には本当に感謝しています。ありがとうございました。

(前列左から2番目 宮下 実羽さん)

解剖学第二講座では、2年生までの授業では入ったことのなかった動物実験室でマウスを使って研究しました。研究は初めてだったので、マウスの行動を観察する、行動実験をすることで研究に慣れていきました。ある程度研究に慣れた頃に、免疫染色やPCRなども行いました。難しい実験も先生が丁寧に教えて下さったため、研究に慣れるという意味では最高のリサーチ・クラークシップとなりました。成果発表会資料の作成や発表の準備についても助言をもらうことができました。本リサクラを通して研究の基礎を学ぶことができ、貴重な体験をすることができました。

(前列左から3番目 中里 伸太郎さん)

今回のリサーチ・クラークシップでは、免疫学講座の伊藤利洋先生のご紹介で、奈良先端科学技術大学院大学の河合太郎先生の研究室で実習をさせていただきました。

2ヶ月半の間、研究室の先生方や先輩方に丁寧に実験の指導をしていただき、研究の楽しさと結果が出たときの喜びを実感することができました。それと同時に、実験の準備段階だけでもかなりの期間を要したことや満足いく結果が得られないことが何度かあったことから、2ヶ月半という限られた期間では「研究」は満足にはできないと痛感しました。

もともと臨床医になりたいという思いで医学部に入りましたが、リサーチ・クラークシップを通して、将来医師となった際には臨床だけでなく研究にも目を向けていこうと思うようになりました。

2年生という早い段階でこのような密度の濃い研究生活を送ることができたのは、受け入れてくださった研究室の先生方だけでなく、リサーチ・クラークシップを企画して下さった学内の先生方のおかげだと思っています。この実習で得られた経験を糧により一層勉学に励んでいく所存です。この度は本当にありがとうございました。

(前列右端 和泉 敦士さん)

本年度のリサーチ・クラークシップは、学内55教室、学外22教室のご協力のもとに、無事に終了することができました。成果発表会では、審査委員を悩ます優れた発表も多く、学生の皆さんのポテンシャルの高さと本科目を通しての成長を肌で感じました。本科目は、ともすると膨大な暗記や試験勉強に終始しがちな医学部の学生生活の中で、アカデミックな探究心の醸成に潤沢な時間を注ぐことのできる、大学らしい教育の場と考えております。写真の学生さんたちの生き生きとした表情を見て、さらに実りのある科目にできるようにと、気持ちを新たにしております。今後とも、諸先生方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

(科目責任者 堀江基礎教育部長)

Winner Report

9.30

総説論文が Highly Cited Papers of IJMS in 2021 に選出されました

皮膚科学 講師 宮川 史

依頼を受けて書いた総説、“Miyagawa F, Asada H. Current Perspective Regarding the Immunopathogenesis of Drug-Induced Hypersensitivity Syndrome/Drug Reaction with Eosinophilia and Systemic Symptoms(DIHS/DRESS). Int J Mol Sci.22(4):2147,2021” が 30 回以上引用されており、Highly Cited Papers に選出されました。薬剤性過敏症候群 (DIHS/DRESS) は重症薬疹の 1 つで、教室の主要研究テーマとして教室をあげて病態解明に取り組んでいます。この論文では、DIHS/DRESS の発症機序について、これまで我々が発表してきた研究論文も引用しながら概説しました。御指導頂いた浅田教授を始め、研究に協力頂いた教室員の皆様に深く感謝申し上げます。



3.1

令和 4 年度コニカミノルタ画像科学奨励賞を受賞しました

産婦人科学 助教 河原 直紀

この度、『広域周波数超音波測定法を用いた子宮内膜症性嚢胞悪性化の鑑別法の開発』と題する研究テーマに対して、令和 4 年度コニカミノルタ画像科学奨励賞を受賞しました。本研究では別名=チョコレート嚢胞と称される内膜症性嚢胞とここから発生する卵巣癌の鑑別において、経膈超音波検査を用いた嚢胞内容液の『見え方』の変化が悪性転化の指標になることは従来より周知の事実でしたが、エビデンスがないのが現状でした。これに着目し画像データを処理することで数値化し、さらに周波数を変調して得られた波形を評価することで良悪性の鑑別が可能になることを示し、今後臨床試験として発展させるという内容です。御指導頂きました木村文則教授をはじめとして多くの先生方に心より感謝申し上げます。今後もさらなる研究推進のためにご協力を賜れますと幸いです。

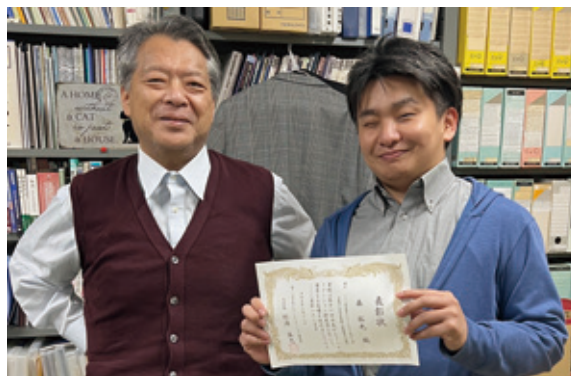


3.11

第 12 回日本がんリハビリテーション研究会で優秀演題賞を受賞しました

分子病理学 博士研究員 森 拓也

2023 年 3 月 11 ~ 12 日に名古屋市で開催された第 12 回日本がんリハビリテーション研究会で、優秀演題賞に選ばれました。受賞した発表は「マウス悪液質モデルにおける抗がん剤治療時の骨格筋萎縮と補助療法の検討」というもので、がん化学療法に伴い骨格筋萎縮が惹起され、それを中鎖脂肪酸の併用により軽減することが可能であることをマウス悪液質モデルを用いて解明したものです。ご指導下さった國安弘基教授ほか多くの先生方にこの場をお借りし深く感謝申し上げます。



3.16

令和 4 年度 FD 活動表彰式を行いました

令和 4 年度は全 12 回の FD が開催されました。令和 4 年度 FD 活動の表彰については、医学教育フォーラム（テーマ：学生の学習力を伸ばす評価とは）において提出されたレポート（テーマ：学生の学習力を伸ばす評価とは）により、本学にとって有意義であり、非常に充実した意見を発表いただいた方を対象といたしました。結果、教養教育：山本恵三准教授（化学）基礎医学：王寺幸輝准教授（病原体・感染防御医学）臨床医学：中出裕士助教（消化器・総合外科学）が表彰されました。



Winner Report

令和4年度 学位授与の状況

博士 (医学)

次の46名に博士 (医学) の学位が授与されました。
(甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

学位授与日 令和4年6月29日 (水) 4名

(甲) 奥田 千愛 生体高分子学
藤原 美子 運動器再建医学
吉川 裕晶 精神医学行動神経科学
位田 みつる 侵襲制御・生体管理医学

学位授与日 令和4年9月28日 (水) 10名

(甲) 宮本 拓馬 運動器再建医学
塩田 智 臨床神経筋病態学
古田 隆徳 脳神経機能制御医学
山崎 剛司 運動器再建医学
小川 憲二 女性生殖器病態制御医学
金本 智之 発生・発達医学
北野 公一 耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
高野 啓佑 救急病態制御医学
(乙) 宮崎 文直 先天性心疾患診断治療学・心臓形態学
橋本 小児科学

学位授与日 令和4年12月22日 (木) 6名

(甲) 明神 大也 公衆衛生学
清水 久央 臨床神経筋病態学
三浦 公郎 運動器再建医学
岩本 崇史 泌尿器病態機能制御医学
(乙) 篠原 雅岳 泌尿器病態機能制御医学
西山 敦子 小児科学

学位授与日 令和5年3月15日 (水) 26名

(甲) 櫻村 和生 疫学
榎本 壮秀 消化器病態・代謝機能制御医学
竹田 惣一 消化器病態・代謝機能制御医学
藤本 優樹 消化器病態・代謝機能制御医学
村田 晃児 消化器病態・代謝機能制御医学
中瀬 健太 脳神経機能制御医学
長嶋 光幸 運動器再建医学
龍見 重信 病理診断学
小川 裕貴 公衆衛生学
経堂 篤史 循環器病態制御医学
杉浦 純一 循環器病態制御医学

岡本 愛 脳神経機能制御医学
田中 伯 脳神経機能制御医学
金 泰均 脳神経機能制御医学
須賀 佑磨 運動器再建医学
岸 真五 運動器再生医学
山中 彰一郎 女性生殖器病態制御医学
家村 友輔 泌尿器病態機能制御医学
尾崎 大輔 耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
塩崎 智之 耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
太地 良佑 画像診断・低侵襲治療学
伊藤 真吾 救急病態制御医学
久保 政之 血液・血流機能再建医学
(乙) 橋本 行弘 循環器内科学
對馬 英雄 腎臓内科学
小西 康司 麻酔科学

奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞
甲の学位論文申請者のうち主科目指導教員が推薦した者の中から
医学の研究に最も優れた論文の申請者
久保 政之 血液・血流機能再建医学

修士 (医科学)

次の6名に修士 (医科学) の学位が授与されました。

北川 大輔 微生物学
堀井 翔平 分子腫瘍病理学
衣笠 佑基 侵襲制御・生体管理医学
芹生 直人 リハビリテーション医学
今村 亮太 血液・血流機能再建医学
石井 利英 臨床実証医学

修士 (看護学)

次の10名に修士 (看護学) の学位が授与されました。

福田 あずか 看護学コース論文コース (健康科学 (心と脳の発達学))
鹿山 美穂 看護学コース論文コース (在宅看護学)
宮本 敦子 看護学コース論文コース (在宅看護学)
宇山 佳代 看護学コース高度実践コース (周麻酔期看護学)
大西 里歩 看護学コース高度実践コース (がん看護学)
青木 夏帆 助産学実践コース (女性健康・助産学)
唐住 滯 助産学実践コース (女性健康・助産学)
高橋 菜美 助産学実践コース (女性健康・助産学)
中川 真子 助産学実践コース (女性健康・助産学)
中川 明莉 助産学実践コース (女性健康・助産学)

未来への飛躍基金だより

奈良県立医科大学へのご寄附をお願いします

平素より本学の教育・研究・診療活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。本学では、未来に向けた新たな飛躍を確かなものにするため、教育・研究・診療活動や地域貢献活動の推進、修学環境の充実、キャンパス移転に係る施設整備等に対応するべく、「未来への飛躍」基金を創設し、広くご支援を募っております。

～活動事業・内容 (抜粋)～

- 教育・研究及び診療活動への支援
- 大学及び附属病院の施設整備
- 大学と社会とのつながりへの支援 等
- 医学科、看護学科学生への研修費用の助成
- 大学院入学者への奨学金
- クラブ活動への助成
- 高度シミュレータの購入
- 地域の健康イベントへの助成 等



医学科リサーチ・クワークシップ



看護学科チェンマイ大学での海外実習



西医体への参加費助成

紺綬褒章のご案内

本学は、内閣府賞勲局から紺綬褒章「公益団体」として認定を受けています。基金に500万円以上のご寄附を頂いた方 (個人) 及び1,000万円以上のご寄附を頂いた団体は、紺綬褒章の授与の対象となります。授与申請については本学の取扱基準に基づいて行いますので、詳しくは総務広報課までお問合せください。

公開講座情報

肝がん撲滅運動市民公開講座

開催日時：6月17日(土) 13:30 開場

14:00～16:00

場 所：奈良県コンベンションセンター
天平ホール

概 要：肝臓についてスペシャリストによる最新情報など

備 考：事前申込不要 参加無料

問合せ先：奈良県立医科大学 消化器内科学講座
TEL 0744-22-3051 (内線 3415)
E-mail 3naika@naramed-u.ac.jp

第5回わい和いNARA 在宅サポート研究会 研究発表会

開催日時：2023年6月3日(土) 10:00～15:30

場 所：奈良県立医科大学看護学科棟 第1合同講義室、第1講義室
※ZoomによるLIVE配信、後日オンデマンド配信も実施

概 要：「地域をつなぎ新しい景色へ 2023」

大 会 長：明日香村国民健康保険診療所 所長 武田 以知郎

参加申込：<https://forms.gle/V17K464L7cnDSTdY6>

備 考：参加無料、Facebook等に詳細を随時アップ

問合せ先：奈良県立医科大学医学部看護学科 在宅看護学
TEL 0744-22-3051 (内線 2750、2776)
Mail ynararak@naramed-u.ac.jp
URL wainara.com
Facebookは右記の二次元バーコードからアクセスください



令和5年度入試結果

		募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (Bの内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率
医学科	推薦 (緊急医師確保)	13	75	72	13	0	13	5.8	6.0
	推薦 (地域枠)	25	143	138	25	0	25	5.7	5.6
	前期	22	224	189	22	0	22	10.2	6.5
	後期	53	997	251	61	8	53	16.3	21.9
	編入学 (研究医)	1	3	2	1	0	1	3.0	0.0
	編入学	3	21	19	4	1	2	5.3	17.0
	小 計	117	1,463	671	126	9	116	11.6	13.9
看護学科	推薦 (地域枠)	35	72	72	35	0	35	2.1	2.0
	前期 (一般枠)	40	95	91	42	2	40	2.3	1.8
	前期 (地域枠)	10	35	32	10	0	10	3.5	3.7
	小 計	85	202	195	87	2	85	2.3	2.1
医学部	合 計	202	1,665	866	213	11	201	7.8	9.0

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力を頂き、心から御礼申し上げます。基金創設以来、令和5年3月末で累計4,069件のご寄附をいただいております。なお、今号では令和5年1月～令和5年3月にご寄附いただいた方のご芳名を掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

北口 勝康 様 國分 清和 様

◆30万円以上100万円未満

小林 昌義 様 吉岡 章 様

◆10万円以上30万円未満

田中 末子 様 塚田 周平 様 中田 荷葉 様

◆10万円未満

村上 真也 様 掲載を希望されないご寄附者様 4名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

洲脇 直己 様

【法人・企業】

◆100万円以上

一般財団法人 弘済会 様

【奈良県立医科大学 総務広報課】

TEL：0744-22-3051 (内線 2803) E-mail：hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

未来への飛躍基金 HP：<https://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/> または「未来への飛躍基金」で検索！



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

	日付	媒体	対象者			掲載概要
2022年	10月26日	奈良新聞	消化器内科学	准教授	赤羽たけみ	がんの早期検査へ警鐘
2023年	2月1日	日本診療放射線技師会誌	教育開発センター	特任講師	岡本左和子	医師の働き方改革に関する研究班の視察による米国の状況①米国における医師の働き方改革に伴うタスクシフトを担う医療職能のオーバービュー
	2月14日	関西テレビ 報道ランナー	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	「带状疱疹の最近の動向について」のコメント出演
	2月14日	日本経済新聞	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域の医療・介護 効率化 開業医「連携法人」参画へ
	2月16日	北羽新報	整形外科学	教授	田中 康仁	健康ライフ 曲がったままの足指ハンマートゥ
	2月27日	NHK		理事長・学長	細井 裕司	「軟骨で聞くイヤホン」で高齢者支援 都内の信金で試験導入へ
	2月27日	日本経済新聞 他		理事長・学長	細井 裕司	奈良医大、信金全国組織と協定 軟骨伝導技術普及へ
	3月1日	読売新聞 ヨミドクター		理事長・学長	細井 裕司	奈良県立医大が信金全国組織と協定、耳の「軟骨伝導」窓口で導入
	3月1日	日本診療放射線技師会誌	教育開発センター	特任講師	岡本左和子	医師の働き方改革に関する研究班の視察による米国の状況②米国において医師からタスクシフトを担う医療職能：ナースプラクティショナー(Nurse Practitioner: NP) の実際
	3月1日	週刊文春 令和5年3月2日号	公衆衛生学	教授	今村 知明	看護師1人が入院患者7人を受け持つ「7対1看護配置」についてコメント
	3月2日	関西テレビ 報道ランナー		理事長・学長	細井 裕司	世界初? ”第3の聴覚”!? 軟骨伝導イヤホン
	3月3日	読売新聞		理事長・学長	細井 裕司	奈良県立医大が地域活性化協定 全国の信金実行委と
	3月6日	金融経済新聞 他		理事長・学長	細井 裕司	奈良中央信金・城南信金 「軟骨伝導」技術接客に活用 中小企業への展開も
	3月10日	ニッポン		理事長・学長	細井 裕司	よい仕事実行委 奈良県立医科大などと連携 軟骨伝導技術を企業に紹介
	3月11日	読売新聞	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療体制の維持 課題 コロナ5 類移行
	3月31日	産経新聞	MBT 研究所	副所長	梅田 智広	奈良発・見守りサービスが拡大 データが育てる社会的資本
	4月14日	NHK 大阪 かんさい熱視線				「地方の危機を“攻める”大学が救う!」
	4月25日	NHKEテレ バリュウの真実	疫学・予防医学	特任准教授	大林 賢史	高校生が抱える睡眠の悩みと光の関係を解説
	4月28日	奈良新聞		理事長・学長	細井 裕司	東京の信金 軟骨伝導イヤホン導入 難聴者の会話助ける

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

編集後記

新型コロナウイルス感染症が5類に変更され、徐々にコロナ禍前の日常を取り戻しつつあります。本学でも対面授業の全面的な再開とともに、キャンパス内に賑やかな学生の声に戻ってきました。今号では、卒業式・入学式のほか、「奈良学」や学生の模擬国連世界大会参加決定等について紹介しています。

第84号学報の発行にあたり、ご協力・ご支援いただいたみなさまに深く感謝申し上げます。

